

No.21 「1%でも早く始まってくれば助かる」――妻の家計やりくりを思いながらガソリン代にも苦しむ 35 歳ドライバー

対象者プロフィール

氏名	坂田 浩二
居住地	東京都八王子市
年齢・性別	35 歳・男性
職業	運送会社社員（ドライバー）
家族構成	妻（パート）・子 2 人（7 歳・4 歳）
政治関心/知識	低/低

3 分ブリーフィング

【1. 導入+Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「妻が食費を頑張って節約しているので。少しでも安くなれば妻も楽になるかなと」と述べた。レジシステムの理由に「1%で半年早く始まる方がいい。うちは待てないので」と応じた。

推論：消費税議論への関心は薄いですが、妻への思いが賛成の動機になっている。「自分は助かりたい」ではなく「妻が楽になれば」という視点が一貫している。長距離ドライバーの多忙さが政治情報へのアクセスを阻んでおり、消費税知識は妻を経由した間接的なものだ。

FD：坂田にとって消費税 1%案への賛成は「妻が日々やりくりしている家計に少しでも楽になってほしい」という間接的な動機から来ている。自分への直接の関心より、家計を担う妻への気遣いが評価の根拠だ。早期実現への要求も「妻のために」という文脈で語られている。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「食費は妻が管理しているので詳しい金額はわからない。消費税がどこに使われているかとかは正直よくわからない」と述べた。「仕事が忙しくてニュースをあまり見られない」と語った。

推論：消費税への知識は断片的で浅いが、それが問題にならない構造がある。家計管理を妻に任せており、消費税の影響を直接体感していない。ガソリン代の高騰の方が仕事・生活の両面で切実であり、消費税は妻を通して間接的に体感している。

FD：坂田における消費税は「妻から聞いて知る程度の間接的な問題」だ。ガソリン代という直接のコスト問題が最大の関心事であり、消費税は妻を経由して間接的に意識されている。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「消費税もガソリン代も、早く何とかしてください」がメッセージだと答えた。「ガソリン代が下がれば仕事も楽になる。両方やってほしい」と語った。

推論：高市への評価は消費税単独ではなく、ガソリン代という別の切実な問題と連動している。トラックドライバーとして燃料費が最大の関心事であり、消費税議論もガソリン代という文脈で位置づけられている。

FD：坂田の高市評価は「消費税もガソリン代も早く何とかしてほしい」という二重の要求だ。消費税への関心より燃料費への切実さの方が本音であり、消費税 1%案は「早く始まれば妻が助かる」という間接的な賛成にとどまっている。

【全体総括】

根拠：「1%でも早く始まってくれれば助かる」と締めた。「妻が毎日家計をやりくりしているので、早く始まった方がいい」と述べた。

推論：坂田を貫く行動原理は「家計は妻に任せており、消費税を妻の問題として見ている」だ。ガソリン代が自分にとって最も切実な問題であり、消費税 1%案は「妻のために早く始まってほしい」という間接的な賛成だ。

FD：坂田浩二を特徴づけるのは「消費税議論に詳しくはないが、妻が家計をやりくりしているから 1%でも早く始まってほしいと思う 35 歳ドライバー」だ。「妻が楽になれば」という言葉が消費税への賛否の根拠になっており、自分の最大の問題はガソリン代だという本音が並存している。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話しいただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

坂田浩二：長距離の仕事でずっと走り回っているの、ニュースを見る時間もなくて。ガソリン代が高くて、仕事のコスト的にも家計的にも大変です。家のことは妻に任せっきりで。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

坂田浩二：消費税がなくなるとかいう話、妻から聞いたことがあります。テレビで言ってたって。

M：知っていることを教えてください。

坂田浩二：高市さんが食品の消費税をゼロにするって言ってたのは聞きました。それくらいしか知らないです。

M：その話を聞いた時、どんな気持ちでしたか？

坂田浩二：妻が「食費が安くなるかも」と喜んでいました。僕も安くなるなら助かるなとは思いましたが、本当に実現するのかなというのが正直な気持ちで。

M：なぜそう思いましたか？

坂田浩二：政治って約束が変わることが多いので。期待しすぎると裏切られる気がして。

M：食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

坂田浩二：ゼロじゃないんですか？1%でも下がるなら、まあ助かりますね。ゼロよりは少ないですが。

M：なぜそう思いますか？

坂田浩二：妻が食費を頑張って節約しているので。少しでも安くなれば、妻も楽になるかなと。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

坂田浩二：うっすら覚えています。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

坂田浩二：まあ、そういうもんかなという感じです。最初から「本当にゼロになるのか？」と思っていたので。

M：1%になったとしたら評価しますか？

坂田浩二：下がれば評価します。何もないよりはいいので。

M：0 にできない理由について知りたいですか？

坂田浩二：理由があるなら聞きたいですね。

M：なぜ 1%という議論が出ているか、ご存知ですか？

坂田浩二：知らないです。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

坂田浩二：そういう理由なんですか。レジの機械を変えるのに時間がかかるわけですね。なら 1%で半年早く始まる方がいい。うちは待てないので。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

坂田浩二：そうです。早い方が助かります。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

坂田浩二：早く決めてほしいですね。うちの家計は検討中でも待ってられないので。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

坂田浩二：食品が 8%で他は 10%というのは知っています。消費税がどこに使われているかとかは正直よくわかりません。仕事が忙しくてニュースをあまり見られないので。

M：まずご家族の食費・生活費という立場から、どう感じますか？

坂田浩二：食費は妻が管理しているので詳しい金額はわかりませんが、月 5 万円くらいかかっていると聞いています。子どもが 2 人いて、食費も結構かかるって妻が言っていて。消費税が下がれば少し楽になるんじゃないかと思います。

M：その情報はどこから？

坂田浩二：妻から聞いています。家計のことは妻任せで。

M：何か実感として感じているものはありますか？

坂田浩二：ガソリンが高くなっているのは仕事でも家でも実感しています。食材も妻が「高くなった」と言っています。消費税のせいなのか物価のせいなのかわかりませんが、全体的に高くなっているのは確かです。

M：それについてはどう思いますか？

坂田浩二：ガソリン代も食費も高く、家計が厳しいのは実感しています。消費税が下がれば、妻が少し楽になるんじゃないかと思います。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

坂田浩二：正直、あまり追えていなくて。女性の総理というのは印象にありますが。消費税の話は妻から聞いて知っている程度で。

M：トラックドライバーのお立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

坂田浩二：ガソリン代の問題が一番気になります。仕事でも家でも燃料費が大変で。消費税の話もありがたいですが、ガソリン代も何とかしてほしいという気持ちがあります。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

坂田浩二：やろうとしているのは良いと思います。1%になっても下がるなら評価します。あとは早く実現してくれれば。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

坂田浩二：「消費税もガソリン代も、早く何とかしてください」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

坂田浩二：家計も仕事のコストも厳しくて。消費税 1%でも下がれば助かりますし、ガソリン代が下がれば仕事も楽になる。両方やってほしいです。

締め

M：奥様とこういう話をすることはありますか？

坂田浩二：妻が「食費の消費税がゼロになるかもしれない」と話してくれていました。1%になりそうというのは今日初めて聞きました。帰って話してみます。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

坂田浩二：「1%でも早く始まってくれれば助かる」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

坂田浩二：レジの機械の話を聞いて、1%で半年早く始まるなら 1%の方がいいと思いました。妻が毎日家計をやりくりしているので、早く始まった方がいい。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

坂田浩二：消費税の話は今日少し詳しく聞けました。ガソリン代の方が自分は切実ですが、食費の消費税も 1%でも下がれば、妻が助かると思います。

M：ありがとうございました。

No.22 「1%に決まったら早めに告知して準備期間を確保してください」——税率変更のたびに取引先と価格交渉してきた 40 歳営業管理職

対象者プロフィール

氏名	岩崎 隆史
居住地	東京都調布市
年齢・性別	40 歳・男性
職業	会社員（メーカー・営業管理）
家族構成	妻（専業主婦）・子 2 人（11 歳・8 歳）
政治関心/知識	中／中

3 分ブリーフィング

【1. 導入＋Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「生活者として食費が下がるのは助かりますが、仕事柄、税率が変わると取引先との価格交渉が発生するので」と述べた。1%案に「1%でも下がるなら、家計的には助かります」と答えた。レジシステムの理由に「仕事でもシステム対応に時間がかかるのはよくわかりますし。1%で半年早く実現できるなら、確かにその方が合理的ですね」と応じた。

推論：消費税議論を「生活者」と「仕事」という二つの立場から同時に見ている。税率変更のたびに価格交渉が発生するという実務経験が、「変わること」への複雑な感情を生んでいる。レジシステムの説明にも仕事の経験から即座に納得している。

FD：岩崎にとって消費税 1%案への態度は「家計的には助かる、仕事には準備が必要」という二つの立場の同居だ。生活者として賛成しながら、税率変更の実務を担う立場として「早く決めて告知してほしい」という要求が生まれている。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「仕事で消費税の転嫁問題を担当しているので、事業者側の仕組みも理解しています」と述べた。「仕事の視点と生活者の視点、両方から消費税を見ている感じです」と語った。

推論：消費税への知識は一般より高く、事業者側の転嫁問題を実務として理解している。食費への消費税は「助かる」と認識しているが、税率変更のたびに対応コストがかかるという実務上の負担も認識している。二つの立場が消費税への評価を複雑にしている。

FD：岩崎における消費税は「生活者と事業担当者の両方の立場から見ている問題」だ。家計への恩恵は明確に認識しているが、税率変更の準備コストという仕事上の現実も並走している。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「1%に決まったら、早めに告知して準備期間を確保してください」がメッセージだと答えた。「決まったら早めに周知してほしい。家計としても、いつから助かるのか見通しが立てやすい方がいい」と語った。

推論：高市への評価は「決定の速さ」と「告知の早さ」という二点に集約されている。消費税1%案自体は賛成だが、変更の周知が遅れると仕事・生活両面で困るという実務上の要求が強い。

FD：岩崎の高市評価は「方向性は良いが、決まったら早く告知してほしい」という実務的な要求だ。税率変更のたびに取引先と交渉してきた経験が、「決定後の周知の速さ」への関心を生んでいる。

【全体総括】

根拠：「1%案はシステムの理由があるならわかった。早く決めて告知してほしい」と締めた。「生活者としても、仕事としても、早く決まらないと動けない」と述べた。

推論：岩崎を貫く行動原理は「生活者と事業担当者の二つの立場が、消費税1%案への「早く決めてほしい」という要求を両側から強化している」だ。レジシステムの説明も仕事の経験から即座に納得しており、実務的な論理で動く構造がある。

FD：岩崎隆史を特徴づけるのは「生活者として1%案に賛成しながら、税率変更の実務担当として準備期間の確保を求める40歳営業管理職」だ。「早く決めて告知してほしい」という言葉に、生活者と仕事人の二つの立場が重なっている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話いただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

岩崎隆史：子どもが2人いて、上が11歳で中学受験を少し意識し始めている時期です。妻が専業主婦で、家計は妻が管理しています。仕事では最近、取引先との価格交渉が増えていて忙しいですね。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

岩崎隆史：知っています。高市総理が食料品の消費税をゼロにするという公約を出していたのは知っています。最近1%案が出ているのも聞きました。

M：知っていることを教えてください。

岩崎隆史：公約でゼロと言っていたのが、最近は1%という話になってきているということは知っています。仕事で消費税の転嫁問題を担当しているので、税率変更の話には敏感です。

M：その話を聞いた時、どんな気持ちでしたか？

岩崎隆史：生活者として食費が下がるのは助かりますが、仕事柄、税率が変わると取引先との価格交渉が発生するので、そちらの面でも影響が出るなとは思いました。

M：ご家庭での食費という観点ではいかがですか？

岩崎隆史：妻に聞くと食費は月 6 万円くらいかかっているそうで。消費税が下がれば少し楽になると妻も言っていました。

M：食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

岩崎隆史：1%でも下がるなら、家計的には助かります。ゼロの方が良かったですが、1%になった理由が気になっていました。

M：なぜそう思いますか？

岩崎隆史：子どもの教育費も増えてきているので、食費が少しでも安くなれば助かります。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

岩崎隆史：覚えています。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

岩崎隆史：仕事の経験から、消費税の変更には相当な準備が必要だとわかっているんで、ゼロは現実的に難しいだろうとは思っていました。「やっぱり」という感じで。

M：1%になったとしたら評価しますか？

岩崎隆史：方向性として評価します。ただ、なぜ 1%なのかの説明がほしかったです。

M：0 にできない理由について知りたいですか？

岩崎隆史：知りたいです。仕事柄、税率変更の理由には関心があります。

M：なぜ 1%という議論が出ているか、ご存知ですか？

岩崎隆史：知らないです。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

岩崎隆史：なるほど、システムの改修の問題ですね。それは説得力があります。仕事でもシステム対応に時間がかかるのはよくわかりますし。1%で半年早く実現できるなら、確かにその方が合理的ですね。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

岩崎隆史：そうですね。理由がわかれば納得できます。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

岩崎隆史：早く決まってほしいです。税率変更の準備期間のことを考えると、早めに決まらないと現場が対応できないので。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

岩崎隆史：食料品が8%で、それ以外は10%というのは知っています。仕事で消費税の転嫁問題を担当しているので、事業者側の仕組みも理解しています。消費税が下がると取引先との価格交渉が発生するので、税率変更は仕事上も影響があります。

M：ご家族の食費という立場からはいかがですか？

岩崎隆史：妻が月6万円くらいかけて家族4人の食費を管理しています。消費税が1%下がれば年間で数千円の節約になりますし、子どもの教育費が増えてきている中では助かります。仕事の視点と生活者の視点、両方から消費税を見ている感じです。

M：その情報はどこから？

岩崎隆史：仕事での実務経験と、ニュースから。妻から家計の話も聞いています。

M：何か実感として感じているものはありますか？

岩崎隆史：食材が高くなっているのは妻から聞いています。仕事では、物価上昇を理由にした価格改定交渉が増えていて、消費税と物価が重なって値上がり圧力が続いている感覚があります。

M：それについてはどう思いますか？

岩崎隆史：消費税が下がれば生活費が少し楽になります。ただ仕事の観点からは、税率変更のたびに対応コストがかかるので、一度決めたら安定してほしいという気持ちもあります。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

岩崎隆史：就任前は積極的な経済政策をやりそうというイメージでした。消費税ゼロの公約は「大きく出たな」と思いましたが、1%案になったのは「やっぱり現実的な落とし所に来たか」という感じです。

M：営業管理のお立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

岩崎隆史：税制変更の際の経過措置や準備期間についての説明がほしいです。今日のレジシステムの話のように、変更には準備時間がかかるので、企業側が対応できる期間を確保してほしい。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

岩崎隆史：方向性は良いと思います。ただ、今日初めてシステムの理由を聞きました。こういう説明を早めにしてほしかったと思います。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

岩崎隆史：「1%に決まったら、早めに告知して準備期間を確保してください」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

岩崎隆史：税率変更は準備が必要で、突然変わると現場が混乱します。決まったら早めに周知してほしい。家計としても、いつから助かるのか見通しが立てやすい方がいいですし。

締め

M：奥様とこういう話をすることはありますか？

岩崎隆史：します。妻は「食費が安くなるなら助かる」と言っていました。1%になりそうという話は伝えていなかったなので、今日帰って話します。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

岩崎隆史：「1%案はシステムの理由があるならわかった。早く決めて告知してほしい」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

岩崎隆史：今日の話でレジシステムの理由がわかり納得しました。仕事でもシステム対応には時間がかかるのでわかります。1%案で半年早く始まるなら、その方が合理的だと思います。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

岩崎隆史：消費税の話、生活者としては助かりますし、仕事としては準備が必要です。1%でも下がれば家計的には嬉しいですし、仕事の準備も早めに始められるので、早く決めてほしいですね。

M：ありがとうございました。

No.23 「妻が助かるというなら 1%で半年早く始まる方がいい——食費管理は妻に委ねる 32 歳自衛隊員」

対象者プロフィール

氏名	鈴木 誠
居住地	東京都立川市
年齢・性別	32 歳・男性
職業	自衛隊員
家族構成	妻・子 1 人（2 歳）
政治関心/知識	中／低

3 分ブリーフィング

【1. 導入＋Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「妻が助かるというなら 1%で半年早く始まる方がいい」と述べた。「妻も早い方がいいと思うと思います」と語り、食費節約への動機を「妻が助かると言っている」という形で表現した。

推論：食費の管理が妻に委ねられており、消費税への評価が「妻が助かると言っている」という間接表現として出てくる。自分自身の評価と妻の評価を一致させる形で支持を示しており、家計の判断権限を妻に置いていることが語り口に反映されている。システムの問題という説明も「大変そうですね」と自然に受け入れた。

FD：鈴木にとって消費税 1%案への賛成は、食費管理を担う妻が「助かる」ということへの同意として表現される。自分の評価より妻の評価を介して意思を示すという語り口が、家計における妻の役割を示している。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「食費は妻が管理しているので詳しくはわかりませんが、月 6～7 万円くらいだと思います」と述べた。「食費が少しでも下がれば家計として助かることは確かです」と続けた。

推論：食費の把握が「～だと思います」という曖昧な形で出てくるのは、食費管理が妻に委ねられているからだ。妻から聞く情報が消費税への評価の一次情報源になっており、自分自身の観察より妻の言葉の方が確かな情報として機能している。

FD：鈴木における消費税は「妻が管理する家計への影響として、妻の言葉を通じて語られる」。自分では把握していない食費の実態を妻に委ね、消費税への評価も「妻が助かると言っているから」という形で出てくる。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「食料品の税金が下がるという話は良いと思いました。妻も喜んでいます」と述べた。「2歳の子どもがいると、保育料とか色々かかってくるので」と続けた。

推論：高市総理への評価を直接語ることを避け、「食費が下がる方向は良い」という最小限の評価と「妻も喜んでいて」という間接表現にとどめている。子育て支援への関心は保育料という具体的な負担として出てくる。

FD：鈴木の高市評価は「食費が下がる方向は良い、妻も喜んでいて」という最も率直で控えめな評価だ。評価を自分の言葉で語るより妻の反応を介して表現する一貫した語り口が、高市評価でも続いている。

【全体総括】

根拠：「妻が助かると言うなら1%で半年早く始まる方がいい」と締めた。「私はあまり詳しくないので、妻の方が主に話しています」という言葉が家計における役割分担を示している。

推論：鈴木を貫く行動原理は「食費管理を妻に委ねており、消費税への評価を『妻が助かると言っている』という形で間接的に表現する。自分の知識・評価の限界を素直に認めながら、妻の判断を家計の基準として受け入れる」だ。

FD：鈴木誠を特徴づけるのは「食費管理を担う妻の判断を家計の基準に置き、消費税への賛成を『妻が助かると言うなら』という形で表現する32歳」だ。「私はあまり詳しくないので、妻の方が主に話しています」という言葉に、家計における妻への信頼と役割分担が凝縮されている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話しただけで大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

鈴木誠：自衛隊に勤めています。妻と2歳の子どもがいます。立川に住んでいます。子どもが生まれてから食費が上がってきているので、家計が気になるようになりました。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

鈴木誠：ぼんやり知っています。食べ物の税金が変わるとかいう話ですね。ゼロになるとか、最近1%案という話も妻から聞きました。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

鈴木誠：食費は妻が管理しているのであまり詳しくないですが、2歳の子どもがいるので月6〜7万円くらいかかっていると思います。妻が「食費が高くなった」とよく言っているので、下がれば助かります。

M：食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

鈴木誠：妻が助かると言っているので良いと思います。食費が少しでも下がれば、家計として助かりますし。

M：なぜそう思いますか？

鈴木誠：2 歳の子どもがいて食費がかかるので、少しでも下がれば助かります。妻が食費を管理してくれているので、妻がありがたいと言うなら、それが一番です。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

鈴木誠：ぼんやり覚えています。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

鈴木誠：特に驚かないですね。ゼロは難しいんだろうなと思っていました。

M：1%になったとしたら評価しますか？

鈴木誠：評価します。食費が少しでも下がれば助かりますし。

M：0 にできない理由について知りたいですか？

鈴木誠：知りたいです。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

鈴木誠：ああ、レジのシステムの問題なんですね。全国のスーパーを一斉に変えとなれば確かに大変そうですね。1%で半年早く始まるなら、その方が家計として助かります。妻も早い方がいいと思うと思います。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

鈴木誠：そうですね。早く始まる方が助かります。妻もそう言うと思います。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

鈴木誠：早く決まれば良いと思います。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

鈴木誠：食料品が 8%で他が 10%というのは知っています。あまり詳しくはないですが。妻の方が詳しいと思います。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

鈴木誠：食費は妻が管理しているので詳しくはわかりませんが、月 6～7 万円くらいだと思います。2 歳の子がいるので食費はかかります。食費が少しでも下がれば家計として助かることは確かです。

M：その情報はどこから？

鈴木誠：妻から聞いています。ニュースもたまに見ますが、あまり追えていないです。

M：何か実感として感じているものはありますか？

鈴木誠：物価が上がっているのは感じています。妻から「同じものが高くなった」と聞きます。自分でもたまにスーパーに行くと前より高い気がします。

M：それについてはどう思いますか？

鈴木誠：消費税が少しでも下がれば助かります。妻も助かると言っているので、それが一番です。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

鈴木誠：特別な印象はないですが、食料品の税金が下がるという話は良いと思いました。妻も喜んでいます。

M：妻と 2 歳のお子さんを育てている家庭の立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

鈴木誠：子どもの食費がかかる今の時期に食費が少し下がれば、家計として助かります。子育て支援がどうなるかも気になります。2 歳の子どもがいますと、保育料とか色々かかってくるので。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

鈴木誠：食費が下がる方向は良いと思います。今日の話でシステムの問題だとわかりました。早く決まれば良いと思います。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

鈴木誠：「食費が少し下がれば助かります。早く確定してください」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

鈴木誠：2 歳の子どもがいて食費がかかるので、少しでも下がれば助かります。妻が助かると言っているので、早く始まってほしいです。

締め

M：奥様とこういう話をすることはありますか？

鈴木誠：します。妻が「食費が下がれば助かるね」と言っていました。私はあまり詳しくないので、妻の方が主に話しています。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

鈴木誠：「妻が助かるというなら 1%で半年早く始まる方がいい」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

鈴木誠：2 歳の子どもがいて食費がかかるので、妻が助かるというなら早く始まった方が良いと思います。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

鈴木誠：今日の話でレジのシステムの問題とわかりました。そういう理由があったんですね。早く確定してほしいです。

M：ありがとうございました。

No.24 「1%でいいから早く実現して財源の手当ても説明してください」——診療所でも機器の消費税を払い続ける 46 歳開業歯科医

対象者プロフィール

氏名	田村 孝
居住地	東京都府中市
年齢・性別	46 歳・男性
職業	歯科医（開業）
家族構成	妻（歯科衛生士）・子 2 人（16 歳・13 歳）
政治関心/知識	高／高

3 分ブリーフィング

【1. 導入＋Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「1%でも下がるのは生活者として助かります」と述べた。レジシステムの理由に「診療所でもレセプトシステムの改修には時間がかかりますから、全国のレジを一斉に対応させるとなれば、相当の準備が必要でしょう。半年早く始まるなら 1%の方が合理的ですね」と応じた。

推論：消費税ゼロの公約に対して「かなり大きな公約」と認識しており、最初から実現性を疑っていた。レジシステムの理由には診療所のシステム経験から即座に納得しており、論理的な説明で動く構造がある。

FD：田村にとって消費税 1%案への賛成は「生活者として助かる、かつシステムの理由は診療所の経験で納得できる」という二つの根拠から来ている。財源への懸念を持ちながらも、レジシステムの説明には即座に合理性を認めた。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「医療サービスは非課税でありながら医療機器や材料の購入に消費税がかかるという問題があつて、以前から業界の課題になっています」と述べた。「家族 4 人で食費は月 8 万円くらいかかっています」と語った。

推論：消費税への知識は一般より格段に高く、医療業界の消費税問題（損税問題）を専門的に理解している。食費への消費税も「助かる」と認識しているが、医療分野の消費税問題という別の関心事が並走している。

FD：田村における消費税は「生活者としての食費と、開業医としての業界問題が重なる問題」だ。食料品消費税の議論を、医療分野の消費税問題という別のフレームとも接続しながら理解している。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「1%でいいから早く実現して、財源の手当ても合わせて説明してください」がメッセージだと答えた。「生活者としても経営者としても、早く実現してほしい」と語った。

推論：高市への評価は生活者と経営者の両方の立場から語られている。消費税 1%案には賛成しながら、財源の手当てという別の説明を求めており、「方向性は良いが説明が必要」という条件付きの評価だ。

FD：田村の高市評価は「1%案はわかった、財源の説明と早期実現を求める」という複合的な要求だ。開業医として医療財源への関心も持っており、消費税を下げることと社会保障財源を守ることの両立を求めている。

【全体総括】

根拠：「1%でいいから早く実現してほしい、理由は今日わかった」と締めた。「レジシステムの理由を今日初めて聞いて納得しました。ゼロより 1%で半年早く始まる方が、生活者としても経営者としても助かります」と述べた。

推論：田村を貫く行動原理は「合理的な説明があれば即座に納得し、次の問いに進む」だ。レジシステムの理由を聞いて即座に「合理的」と受け入れ、「財源はどうなるか」という次の問いに移っている。知識と経験に基づいた段階的な納得が特徴だ。

FD：田村孝を特徴づけるのは「診療所でも機器の消費税を払う開業歯科医として消費税問題を複眼で見ながら、1%案の理由に即座に納得し、財源の説明を次の要求として提示する 46 歳」だ。「理由はわかった、次は財源を説明してほしい」という言葉に、論理的な納得と次の問いへの移行が凝縮されている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話しただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

田村孝：開業医なので仕事とプライベートが混在していますが、最近は医療機器の購入コストが増していて、経営的に気になっています。家庭では子どもが 2 人いて、上が高校受験を終えたばかりで少しホッとしているところです。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

田村孝：もちろん知っています。高市総理が食料品の消費税をゼロにするという公約を出していたのも、最近 1%案が浮上しているのも把握しています。

M：知っていることを教えてください。

田村孝：ゼロにするという公約が出て、それが 1%案になってきているということは知っています。実は歯科医として、医療の消費税問題には別の観点でも関心があつて。医療サービスは非課税なのですが、機器や材料を購入する時は消費税がかかるという問題があつて、以前から業界の課題になっています。

M：ご家庭の食費という観点ではどうですか？

田村孝：家庭としても食費には消費税がかかりますし、下がれば助かります。妻も食費の管理をしていますので。

M：食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

田村孝：1%でも下がるのは生活者として助かります。ゼロの方が良かったのですが、理由があるなら 1%でも評価します。

M：なぜそう思いますか？

田村孝：食費は毎月かかるものなので、1%でも積み重なれば年間で相応の額になります。子どもの教育費もかかる時期ですし。

M：ゼロにするという公約があつたのですが、覚えていますか？

田村孝：覚えています。かなり大きな公約だと思っていました。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

田村孝：ゼロは財政的にも制度的にも難しいだろうとは思っていたので、「やはり」という感じです。

M：1%になったとしたら評価しますか？

田村孝：方向性としては評価します。理由によっては十分納得できます。

M：0 にできない理由について知りたいですか？

田村孝：ぜひ知りたいです。

M：なぜ 1%という議論が出ているか、ご存知ですか？

田村孝：知らないです。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

田村孝：ああ、システムの問題ですね。それは納得できます。診療所でもレセプトシステムの改修には時間がかかりますから、全国のレジを一斉に対応させるとなれば、相当の準備が必要でしょう。半年早く始まるなら 1%の方が合理的ですね。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

田村孝：そうです。理由がわかれば1%で早く始まる方がいい。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

田村孝：早く決めてほしいですね。生活者としても、経営者としても、見通しが立つ方がいい。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

田村孝：消費税の仕組みは詳しく理解しています。食料品が8%、その他が10%というのはもちろん。医療機関の立場からは、診療報酬が非課税でありながら医療機器や材料の購入に消費税がかかるという「損税」問題もよく知っています。ただ、今日のテーマは食料品の消費税ですね。

M：ご家族の食費という立場から、どう感じますか？

田村孝：家族4人で食費は月8万円くらいかかっています。妻が管理していますが、それなりの額です。消費税が1%下がれば年間で数千円から1万円程度の節約になりますし、助かります。ただ、うちは食費よりも子どもの教育費の方が大きな課題ですね。

M：その情報はどこから？

田村孝：自分でニュースをよく見ますし、業界団体からの情報も入ってきます。

M：何か実感として感じているものはありますか？

田村孝：食材が高くなっているのは実感しています。医療機器や材料のコストも上昇していて、経営面でも物価上昇の影響を感じています。

M：それについてはどう思いますか？

田村孝：消費税が下がることは生活者として助かります。ただ社会保障の財源とのバランスが大事で、財源の手当てがどうなるかは気になります。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

田村孝：就任前から経済に積極的という印象でした。消費税ゼロの公約は「思い切ったな」と思いましたが、政策論として実現可能かどうかは疑問でした。1%案になったのは「現実的な落とし所」という感じです。

M：開業医のお立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

田村孝：医療分野では診療報酬の改定と消費税の関係が長年の課題です。食料品の消費税とは別の問題ですが、医療機関の消費税の扱いについても整理してほしいという気持ちがあります。今日のテーマは食料品消費税ですが。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

田村孝：方向性は評価します。今日のレジシステムの理由を聞いて、1%案には納得しました。財源の話がどうなるかを別途説明してほしい。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

田村孝：「1%でいいから早く実現して、財源の手当ても合わせて説明してください」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

田村孝：レジシステムの理由はわかりました。生活者としても経営者としても、早く実現してほしい。ただ消費税を下げることで財源がどうなるかは、社会保障に関わる問題なので、きちんと説明がほしいです。

締め

M：奥様とこういう話をすることはありますか？

田村孝：します。妻も歯科衛生士として働いているので、消費税の話は業界の話も含めてよく話します。食料品の消費税については「助かるね」と言っていました。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

田村孝：「1%でいいから早く実現してほしい、理由は今日わかった」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

田村孝：レジシステムの理由を今日初めて聞いて納得しました。ゼロより1%で半年早く始まる方が、生活者としても経営者としても助かります。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

田村孝：食料品の消費税1%案は、今日の話で理解できました。医療分野の消費税問題は別途議論が必要ですが、今日の話とは分けて考えています。

M：ありがとうございました。

No.25 「1%案の理由はわかった、数字のないところでは完全な賛成はできない」――子の将来への借金を心配する 48 歳会計士

対象者プロフィール

氏名	吉村 大介
居住地	東京都三鷹市
年齢・性別	48 歳・男性
職業	会計士
家族構成	妻（専業主婦）・子 3 人（18 歳・15 歳・12 歳）
政治関心/知識	高／高

3 分ブリーフィング

【1. 導入＋Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「家計的には助かる話ですが、財政への影響を考えると、どこから財源を持ってくるのかという疑問が先に立つ」と述べた。1%案に「財政への影響が抑えられているので、1%案の方が現実的だと思う」と答えた。レジシステムの理由に「財政の問題ではなくシステムの問題なんです。むしろ安心しました。1%で半年早く始まるなら、そちらが合理的ですね」と応じた。

推論：消費税議論を生活者としてではなく財政の専門家として見ている。ゼロ案への懐疑は財政的な理由からであり、レジシステムの説明で「財政の問題ではなかった」とわかった瞬間に「安心した」と述べている。財源への懸念が最大の障壁だったことがわかる。

FD：吉村にとって消費税 1%案への評価は「財政への影響が抑えられている点で現実的」という専門家目線の賛成だ。レジシステムの説明で「財政問題ではない」とわかり安堵したが、財源の説明が別途必要という立場は変わっていない。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「国の借金残高を考えると、消費税を大幅に下げることには慎重になる」と述べた。「短期的には消費税が下がることで家計が楽になりますが、長期的には財源をどうするかが重要です」と語った。

推論：消費税への知識は専門家水準で、財政の数字を日常的に追っている。子ども 3 人の教育費という生活の切実さがあるが、長期的な財政への影響という視点が常に並走している。「今の世代の恩恵を将来世代が借金で返す」という世代間の公平性への問題意識が強い。

FD：吉村における消費税は「短期的な家計の恩恵と長期的な財政負担の間で評価する問題」だ。会計士として財政の数字を知っているからこそ、「下がれば良い」という単純な賛成にならない。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「1%案の技術的な理由はわかりました。次は財政への影響と財源を数字で説明してください」がメッセージだと答えた。「数字のないところでは完全な賛成はできません」と語った。

推論：高市への評価は「技術的な理由は理解したが、財政の数字がなければ完全な賛成はできない」という条件付きだ。「消費税ゼロは選挙向けのアピールかな」という最初の評価から、1%案への「現実的な修正」への評価変化も示している。

FD：吉村の高市評価は「数字の裏付けのある説明があれば賛成できる」という専門家的な条件付き賛成だ。「数字のないところでは完全な賛成はできない」という言葉が、会計士としての評価基準を端的に示している。

【全体総括】

根拠：「1%案はシステムの理由でわかった、財源の数字も出してほしい」と締めた。「子どもたちの世代が将来の財政負担を負わないように、今の政策が持続可能かどうか確認したい」と述べた。

推論：吉村を貫く行動原理は「財政の持続可能性という長期的な視点が、消費税議論への単純な賛成を常に留保させる」だ。子ども3人の将来という個人的な切実さが、財政の専門的な懸念と重なり、「数字で説明してほしい」という要求になっている。

FD：吉村大介を特徴づけるのは「1%案の技術的な理由には納得しながら、数字のない財源論には完全な賛成ができないと言い切る 48 歳会計士」だ。「子どもたちの世代への財政負担」という言葉に、専門家の目線と親としての切実さが重なっている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話しいただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

吉村大介：子どもが3人いて、上が来年大学受験なので教育費がこれから本番です。会計士の仕事をしているので、日本の財政状況は日々気になっています。家計的には妻が管理していますが、消費税の話には職業柄、財政面からも注目しています。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

吉村大介：よく知っています。高市総理が食料品の消費税をゼロにするという公約を出していたことも、最近1%案になってきていることも把握しています。

M：知っていることを教えてください。

吉村大介：会計士として財政の数字を追っているので、消費税の動向には注目しています。ゼロにした場合の税収への影響は相当なもので、社会保障財源の問題と直結します。1%案については、財政への影響を抑えながらも減税の方向を示すという意味で、政策的な妥協点だと見ています。

M：その話を聞いた時、どんな気持ちでしたか？

吉村大介：家計的には助かる話ですが、財政への影響を考えると、「どこから財源を持ってくるのか」という疑問が先に立ちます。特に子どもたちの世代が将来負担を負わないかという心配があります。

M：食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

吉村大介：ゼロよりは財政への影響が抑えられているので、1%案の方が現実的だと思います。家計への恩恵はゼロより小さいですが、財政規律を考えると妥当な落とし所かと。

M：なぜそう思いますか？

吉村大介：国の借金残高を考えると、消費税を大幅に下げることには慎重になります。それでも 1%でも下がれば生活者として助かりますし、子どもが 3 人いる教育費のかかる時期なので。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

吉村大介：もちろん覚えています。財政的に実現可能かどうか、最初から懐疑的でした。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

吉村大介：驚かないです。財政の観点から、ゼロにするのは無理があると思っていたので。

M：1%になったとしたら評価しますか？

吉村大介：財政規律を保ちながら減税の方向を示したという意味では評価します。ただ財源の説明がまだ不十分だと思っています。

M：0 にできない理由について知りたいですか？

吉村大介：知りたいです。財政的な理由かシステムの理由か、気になります。

M：なぜ 1%という議論が出ているか、ご存知ですか？

吉村大介：知らないです。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

吉村大介：ああ、財政の問題ではなくシステムの問題なんですね。それは全く別の話で、むしろ安心しました。財政的な理由でなく、実装上の技術的な制約なら、1%が財政的に正しい判断と

は別に、実現タイミングの問題として理解できます。1%で半年早く始まるなら、そちらが合理的ですね。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

吉村大介：そうです。財政の問題ではないとわかれば、早く始まる方が良いでしょう。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

吉村大介：早く決めてほしいですね。ただ、財源の手当てについての説明がまだ必要だと思っています。決める時には財源も合わせて説明してほしい。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

吉村大介：会計士なので消費税の仕組みは熟知しています。食料品 8%、その他 10%という税率体系も、消費税収が社会保障費に充てられている構造も。日本の財政状況という観点からは、消費税収は非常に重要な財源で、これを下げることに慎重な議論が必要だと思っています。

M：まずご家族の食費・生活費という立場から、どう感じますか？

吉村大介：5 人家族で食費は月 9 万円くらいかかっています。消費税が 1%下がれば年間で 1 万円程度の節約になりますが、子ども 3 人の教育費を考えると、消費税の減少分より教育費の方が桁違いに大きい。それでも「下がるなら下がった方がいい」という気持ちはあります。

M：その情報はどこから？

吉村大介：職業柄、財政関連の情報は常にアンテナを張っています。厚労省や財務省の資料を見ることがあります。

M：何か実感として感じているものはありますか？

吉村大介：食材の値上がりは実感しています。物価上昇と消費税が重なって、生活コストが上がっているのは間違いありません。インフレと税の関係は経済的に複雑だと感じています。

M：それについてはどう思いますか？

吉村大介：短期的には消費税が下がることで家計が楽になりますが、長期的には財源をどうするかが重要です。今の世代が享受した恩恵を、将来世代が借金で返すことになっては困る、というのが正直な思いです。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

吉村大介：就任前は経済・安全保障に強い人というイメージでした。消費税ゼロの公約は「選挙向けのアピールかな」と思っていました。1%案になったことは「現実的な修正」として評価しています。

M：会計士のお立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

吉村大介：財政の持続可能性が一番気になります。消費税を下げながら社会保障をどう維持するか、その財源論が見えていません。消費税収が減った分をどこで補うのか、数字の説明がほしいです。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

吉村大介：方向性は理解します。今日のレジシステムの話で1%案の技術的な理由は納得しました。ただ財政の話は別途ちゃんとした説明が必要で、数字の裏付けがほしいです。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

吉村大介：「1%案の技術的な理由はわかりました。次は財政への影響と財源を数字で説明してください」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

吉村大介：子どもたちの世代が将来の財政負担を負わないように、今の政策が持続可能かどうか確認したい。消費税を下げるなら、その分の財源論を数字で示してほしいです。

締め

M：奥様とこういう話をすることはありますか？

吉村大介：します。妻は「食費が少し安くなるならありがたい」と言っていますが、財政の話になると「難しいことはあなたに任せる」と言います。私の方が心配性かもしれないですが。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

吉村大介：「1%案の理由はわかった、数字のないところでは完全な賛成はできない」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

吉村大介：今日レジシステムの理由を聞いて、1%になった理由は理解しました。技術的な制約なら納得できます。ただ財政への影響は別の問題として残っているので、財源の説明がほしい。会計士として、数字のないところでは完全な賛成はできません。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

吉村大介：消費税1%案は生活者として助かる話で、家族5人には嬉しいです。ただ子どもたちの将来を考えると、財政の持続可能性が最大の関心事です。今の政策が将来世代への負担にならないか、引き続き注目したいと思います。

M：ありがとうございました。

No.26 財源の話がセットでないと、手放しで喜べない——消費税ゼロか1%か、38歳小学校教員の本音

対象者プロフィール

3分ブリーフィング

【1. 導入】

根拠：野田は自分の生活を「まあ普通」と表現しつつも、物価高で食費が確実に増えていると述べた。消費税については「意識したことがなかった」と言うが、給食費無償化が実現していることは知っており、その財源に対して漠然とした不安を持ち始めていた。

推論：教員という職業柄、社会制度と家計の関係を「個人の問題」としてではなく「構造の問題」として認識する傾向がある。消費税を意識しないのは無関心ではなく、直接的な痛みよりも制度的な影響の方が身近に感じられているためと考えられる。

FD：野田にとって消費税は「自分の財布」の問題というより「社会の仕組み」の問題として認識されている。現場で給食費無償化の恩恵を見ているからこそ、その財源に対する感度が高く、消費税議論を単純な「得か損か」では捉えられない構造を持っている。

【2. Part 1：消費税と生活実感】

根拠：「食費が上がっているのは実感している。でも消費税として意識するよりも、全体的に高くなったという感覚」と述べた。給食費無償化については「現場で助かっている家庭が多いのを見ている」と話し、財源がどこから来ているかを「なんとなく気になっている」と言った。

推論：日々の買い物で税率を意識するのではなく、制度の恩恵を現場で目撃している立場として、消費税の増減が社会サービスに直結するという認識を持っている。家計の痛みより制度の持続可能性への関心が先に立つ。

FD：野田の消費税に対する感度は家計レベルではなく制度レベルにある。個人の節約より社会の安定を優先する視点は、教員という職業と切り離せない。

【3. Part 2：食料品消費税 0%→1%案への反応】

根拠：「食費が助かる気持ちと、財源が削られたら給食費無償化が消えるかもという不安が同時にある」と述べ、「財源の話がセットで出てこない手放しで喜べない」と明言した。0%から1%への変更については「なぜ1%なのかの説明がなければ、公約を破ったとしか見えない」と言い、「拙速に決めて後から混乱する方が困る」と続けた。

推論：受益者（家計）としての本音と、制度の持続を願う立場の両方を持っているため、単純に賛成も反対もできない。「財源がセット」という条件は、野田にとっての合格ラインであり、政策の誠実さを測る基準でもある。

FD：野田にとって消費税の引き下げは「安ければいい」の問題ではない。財源の説明なき減税は、別の制度が削られるリスクの予告として受け取られる。賛否より「説明責任」を先に問う姿勢が一貫している。

【4. Part 3：政治・信頼・今後への期待】

根拠：「主権者教育をやっている立場として、政治家が言ったことを守らない姿が子どもの政治不信につながる」と述べた。「下げるなら、教育を守ってください」という言葉には財源問題への強い懸念が込められており、「財源の議論なしに動くのは無責任だと思う」と締めた。パートナーとの会話については「妻も同じような気持ちで、財源どうなるんだろうねと話した」と答えた。

推論：政治不信を「個人の感情」としてではなく「次世代への影響」として語るのは、主権者教育を担う教員としての職業的アイデンティティの反映である。自分の不満を子どもたちへの影響と接続して語ることで、批判の矛先が個人的な怒りを超えた社会的責任論になっている。

FD：野田の政治への要求は「正直に、丁寧に」という一点に集約される。消費税の増減そのものより、決定プロセスの透明性と誠実さを求めている。教育現場で見ている「政治離れ」が、自分自身の政治不信の根拠になっている。

【全体総括】

根拠：「財源の話がセットで出てこないと手放しで喜べない」という発言が、インタビュー全体の軸となった。食費の軽減を「助かる」と感じながらも、給食費無償化などの社会サービスへの影響を同時に心配しており、単純な賛否を示さなかった。

推論：野田の行動原理は「制度の整合性」への信頼にある。消費税の数字より、政策決定の手続きと説明責任を優先する姿勢は、主権者教育を通じて政治と市民の関係を日常的に考えている職業的背景から形成されている。

FD：野田雄一を特徴づけるのは「条件付き賛成」の構造である。消費税が下がること自体への反対はないが、財源の説明と社会サービスの維持が条件となっている。この条件は個人の損得ではなく、社会制度への信頼という価値観から来ており、感情的な反発より論理的な懐疑として機能している。

発言録

導入

M：今日はお時間いただきありがとうございます。最近の生活、どんな感じですか？物価とか家計のことで何か感じていることはありますか？

野田雄一：そうですね、まあ普通といえば普通なんですけど、食費はやっぱり上がってるなという感覚はあります。外食はあまりしないんですが、スーパーで買う金額が前より増えてる気がして。でも何が上がったというより、全体的に高くなった感じですね。

M：消費税については、日頃意識しますか？

野田雄一：正直あまり意識しないですね。レシートを見て「ああ、税金入ってるな」くらいで。食料品は8%だったかな、というくらいの認識です。ただ、学校で給食費無償化が実現して、保護者の方が助かってる声を聞くと、あの財源ってどこから来てるんだろう、というのは漠然と気になっています。

Part 1：消費税と生活実感

M：食費が上がっているとおっしゃっていましたが、消費税との関係はどう感じますか？

野田雄一：食費が上がっているのは実感しているんですが、消費税として意識するよりも、全体的に高くなったという感覚の方が強いんですよね。税率が上がったというより、物の値段自体が上がってる印象で。

M：給食費無償化の話が出ましたが、現場ではどんな変化がありましたか？

野田雄一：保護者の方から「助かります」という声は実際に聞きます。給食費って地味に負担になってた家庭が多くて、特に子どもが複数いると結構な金額になりますから。現場で助かっている家庭が多いのを見ると、この制度続いてほしいなとは思います。

M：その財源への不安、もう少し聞かせてもらえますか？

野田雄一：なんとなく、どこかを削って財源を作っているんだろうなという感覚があつて。消費税を下げたら、その分どこかが削られるんじゃないかという心配が頭の片隅にあります。でも具体的に何が削られるかはわからないので、漠然とした不安ですけどね。

Part 2：食料品消費税 0%→1%案への反応

M：実は今、政府が食料品の消費税を0%にするという公約があったんですが、実現には時間がかかるため、まず1%という案が出ています。これを聞いてどう思いますか？

野田雄一：.....1%ですか。正直、最初は「あれ、0%じゃなかったっけ」と思いました。公約が0%だったなら、なぜ1%なのかの説明がなければ、公約を破ったとしか見えないですよね。

M：食費が助かるという面ではどうですか？

野田雄一：食費が助かる気持ちと、財源が削られたら給食費無償化が消えるかもという不安が同時にある、というのが正直なところです。手放しで喜べないというか。

M：どうすれば納得できそうですか？

野田雄一：財源の話がセットで出てこない、手放しで喜べないですね。「1%にすることで財源はこう確保します」という説明があれば、まだわかる。でも「とりあえず1%」だと、何かを犠牲にして数字だけ動かしているように見えてしまって。

M：0%と1%、どちらがいいと思いますか？

野田雄一：0%の方が家計には助かりますけど、拙速に決めて後から混乱する方が困ります。1%でも、ちゃんと財源と社会サービスの維持がセットになっているなら、そっちの方が信頼できる気がします。数字より、決め方の方が大事というか。

Part 3：政治・信頼・今後への期待

M：政治や行政への信頼という観点から、今回の話をどう見えていますか？

野田雄一：私、学校で主権者教育をやっているんですよ。子どもたちに「選挙に行こう」「政治は自分たちのものだ」と教えている立場として、政治家が言ったことを守らない姿が子どもの政治不信につながるというのを、すごく実感していて。

M：教育の現場で感じる政治不信、具体的にはどんな形で出てきますか？

野田雄一：子どもが親から「選挙行っても変わらない」という言葉を聞いて育っているんですよ。それが一番怖いというか。私たちが主権者教育で積み上げても、大人の政治不信が家庭で伝わってしまうと、なかなか届かない。だから政治家には、言ったことは守ってほしいと思います。

M：今回の消費税の話、政府に何か言いたいことはありますか？

野田雄一：下げるなら、教育を守ってください。給食費無償化もそうだし、学校の設備とか先生の数とか、財源の議論なしに数字だけ動かすのは無責任だと思います。消費税を下げること自体には反対しないですが、その代償を教育に払わせないでほしいです。

M：パートナーの方とこういう話をすることはありますか？

野田雄一：はい、妻も同じような気持ちで、「財源どうなるんだろうね」と話しました。妻は家計をしっかりと管理していて、食費が下がれば助かるとは言っていますが、「でも給食費無償化なくなったら困る」とも言っていて。二人とも同じ不安を持っている感じですね。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

野田雄一：「財源の話がセットでないと、手放しで喜べない」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

野田雄一：消費税が下がることは家計には嬉しいですし、保護者の方にも嬉しいことだと思います。でも、その分どこかが削られるんだとしたら、それは結局プラスマイナスゼロか、見えないところでマイナスになる。財源を明示して、社会サービスを守ると明言してくれないと、喜んでいいのかどうかわからない。政治への信頼って、そういうところから積み重なっていくと思っているので。

M：ありがとうございました。

No.27 「1%でも早く始まってくれば妻が助かる」――インボイスに追われながら家計を妻に任せる 44 歳一人親方

対象者プロフィール

氏名	松田 幸雄
居住地	東京都八王子市
年齢・性別	44 歳・男性
職業	工務店経営（一人親方）
家族構成	妻（専業主婦）・子 2 人（14 歳・10 歳）
政治関心/知識	低/低

3 分ブリーフィング

【1. 導入+Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「妻が食費を節約して頑張ってくれてるので、少しでも安くなれば助かりますよ」と述べた。レジシステムの理由に「現場でも機械の入れ替えには時間がかかるのでわかります。1%で半年早く始まるなら、そっちの方がいい。妻が早く助かる方がいい」と応じた。

推論：消費税議論への関心は薄く、妻への思いが賛成の動機になっている。「自分が助かりたい」ではなく「妻が早く助かる方がいい」という言葉が一貫している。現場の機械交換の経験からレジシステムの理由に即座に納得しており、職業的な経験が論理的な納得につながっている。

FD：松田にとって消費税 1%案への賛成は「妻が節約して家計を支えてくれているから、少しでも早く楽にしてあげたい」という思いから来ている。政策への評価軸が完全に妻の生活への影響に向いており、自分への直接の関心は薄い。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「妻が月 5～6 万円で食費を管理してくれている。自分では買い物に行くことがほとんどないので」と述べた。「仕事が忙しくてインボイス制度が始まってから書類仕事が増えて嫌になっている」と語った。

推論：家計管理を妻に任せており、消費税の影響を直接体感していない。消費税への知識は断片的だが、一人親方としてのインボイス制度という別の切実な問題がある。仕事の切実さ（インボイス）と家計の切実さ（妻の節約）が並走している。

FD：松田における消費税は「妻から間接的に体感する問題」だ。一人親方としてインボイス制度の方が自分にとって切実であり、食料品消費税は妻を通して間接的に関心を持っている。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「1%でも早く始めてほしい。それと現場の職人にとってインボイスの書類仕事は本当に大変なので、もっとシンプルにしてください」がメッセージだと答えた。

推論：高市への評価は消費税とインボイスという二つの問題で測られている。食料品消費税は「妻のために早く始まってほしい」、インボイスは「自分が大変なので簡素化してほしい」という二重の要求が出ている。

FD：松田の高市評価は「消費税は妻のために早く、インボイスは自分のためにシンプルに」という二重の要求だ。政治が現場の苦労をわかっていないという感覚が根底にあり、両方やってほしいという切実さが伝わる。

【全体総括】

根拠：「1%でも早く始まってくれれば妻が助かる」と締めた。「妻が毎日節約してくれているので、少しでも早く楽にしてあげたい」と述べた。

推論：松田を貫く行動原理は「家計は妻に任せており、消費税を妻の問題として見ている。自分の最大の問題はインボイスだ」だ。レジシステムの説明に現場の機械経験から即座に納得し、「早く始まってほしい」という要求は妻への思いから来ている。

FD：松田幸雄を特徴づけるのは「インボイスの書類仕事に追われながら、家計を担う妻のために1%でも早く消費税が下がってほしいと思う44歳一人親方」だ。「妻が早く助かる方がいい」という言葉に、消費税への賛否の根拠が凝縮されている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話しいただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

松田幸雄：仕事の方は忙しくはあるんですが、インボイス制度が始まってから書類仕事が増えて嫌になってますよ。現場は好きなんですけど、事務作業が増えるのは勘弁してほしい。家では妻が家計をやってくれているので、食費とかの細かいことは妻に任せっきりです。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

松田幸雄：なんとなく聞いたことがあります。テレビで言ってましたよね。ゼロになるとかなんとか。

M：知っていることを教えてください。

松田幸雄：高市さんが食品の消費税をなくすって言ってたのは知ってます。それがどうなったかはよくわかりませんけど。

M：その話を聞いた時、どんな気持ちでしたか？

松田幸雄：本当にやってくれるなら助かるな、とは思いましたよ。でも政治ってどうせ約束通りにはいかないだろうとも思ってましたが。

M：食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

松田幸雄：ゼロにするって言ってたのに 1%？まあ、下がるなら下がった方がいいですよ。ゼロより少ないですが。

M：なぜそう思いますか？

松田幸雄：妻が食費を節約して頑張ってくれてるので、少しでも安くなれば助かりますよ。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

松田幸雄：うっすら覚えてます。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

松田幸雄：「まあそうなるよな」って感じです。政治の約束って、なかなかそのまま通らないじゃないですか。

M：1%になったとしたら評価しますか？

松田幸雄：下がれば評価しますよ。

M：0 にできない理由について知りたいですか？

松田幸雄：理由があるなら聞きたいですね。

M：なぜ 1%という議論が出ているか、ご存知ですか？

松田幸雄：知らないです。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

松田幸雄：ああ、機械の改修ですか。それは仕方ないですね。現場でも機械の入れ替えには時間がかかるのでわかります。1%で半年早く始まるなら、そっちの方がいいですよ。妻が早く助かる方がいい。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

松田幸雄：そうですね。早い方がいい。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

松田幸雄：早く決めてほしいですよ。ぐずぐずしてないで。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

松田幸雄：食品が 8%で他が 10%というのは知っています。一人親方なので消費税の支払いとインボイスの話は仕事でも関係してきますが、今日は家庭の話ですね。

M：まずご家族の食費・生活費という立場から、どう感じますか？

松田幸雄：妻が月 5～6 万円で食費を管理してくれています。消費税が下がれば少し楽になると思いますよ。妻はスーパーでいつも値段を気にして買い物してるので。

M：その情報はどこから？

松田幸雄：妻から聞いています。自分では買い物に行くことがほとんどないので。

M：何か実感として感じているものはありますか？

松田幸雄：材料費が上がっているのは仕事でも実感しています。木材とかの値段が上がって、見積もりを出すのが大変になってますよ。食費も妻が「高くなった」と言っています。

M：それについてはどう思いますか？

松田幸雄：全体的に物が高くなっていて、家計も仕事も厳しいですよ。消費税が 1%でも下がれば妻が助かりますし、それはそれでありがたい。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

松田幸雄：女性の総理ってのは印象に残ってます。消費税ゼロの話は聞いてましたが、どうせ大変なんじゃないかと思ってました。

M：一人親方として働かれているお立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

松田幸雄：インボイス制度をもっとシンプルにしてほしいですよ。現場の職人には書類仕事が向いていない人も多くて。消費税の話もありがたいですが、インボイスの事務負担を減らしてほしいというのが正直なところです。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

松田幸雄：下げようとしているのは良いと思います。今日の話でレジの機械の理由がわかりましたし、1%でも早く始まってくれれば助かります。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

松田幸雄：「1%でも早く始めてほしい。それと現場の職人にとってインボイスの書類仕事は本当に大変なので、もっとシンプルにしてください」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

松田幸雄：政治は現場の苦労をわかってないと感じることが多くて。消費税が1%でも下がれば妻が助かるし、インボイスがシンプルになれば自分が助かる。両方やってほしいです。

締め

M：奥様とこういう話をすることはありますか？

松田幸雄：たまにします。妻が「食費の消費税がゼロになるといいね」と言っていました。1%になりそうだというのは今日初めて聞きました。帰って話してみます。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

松田幸雄：「1%でも早く始まってくれれば妻が助かる」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

松田幸雄：レジの機械の話を聞いて、ゼロじゃなくて1%なのはわかりました。半年早く始まるなら1%の方がいい。妻が毎日節約してくれているので、少しでも早く楽にしたい。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

松田幸雄：消費税1%の話は妻には助かる話だと思います。一人親方としてはインボイスの問題の方が切実ですが、家庭では妻が食費を節約してくれているので、1%でも下がってくれれば助かります。

M：ありがとうございました。

No.28 「1%でも下がるなら早く始めてほしい」——コンビニと外食中心で消費税をほぼ意識したことがなかった 30 歳物流社員

対象者プロフィール

氏名	佐伯 拓也
居住地	東京都日野市
年齢・性別	30 歳・男性
職業	会社員（物流）
家族構成	妻（パート）・子なし
政治関心/知識	低/低

3 分ブリーフィング

【1. 導入+Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「コンビニとか外食が多いので、スーパーで食材買う機会がそんなにない。でも 1%でも下がるなら助かります」と述べた。レジシステムの理由に「物流の仕事してるんでシステムの更新には時間がかかるっていうのはわかります。ならゼロより 1%で早く始まる方がいい」と応じた。

推論：消費税ゼロの公約をそもそも知らなかった。コンビニ・外食中心の生活で食料品への消費税の影響が薄く、「実感がない」という言葉が繰り返されている。物流の仕事経験からレジシステムの理由に即座に納得しており、難しい議論より実感ベースで判断している。

FD：佐伯にとって消費税 1%案への賛成は「実感は薄いですが、下がるなら早い方がいい」という消極的な支持だ。スーパーをほぼ使わない生活様式が消費税への当事者感を薄くしており、ゼロ公約すら知らなかったという認知レベルが立場の薄さを示している。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「二人でコンビニとか外食が多いので、スーパーで食材を買うことがあまりない。消費税が下がっても、コンビニや外食には関係ないですね」と述べた。

推論：消費税への知識は最低限で、財源や社会保障との関係への関心はない。コンビニ・外食中心の生活スタイルが食料品消費税の議論を「自分ごと」にならない構造を作っている。物価上昇はコンビニで実感しているが、消費税との因果関係は意識していない。

FD：佐伯における消費税は「コンビニや外食が多い生活では、食料品消費税はほぼ関係ない問題」だ。スーパーでの買い物が少ないため、今回の議論の恩恵が直接届きにくい生活をしている。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「1%でも早く始めてほしい。物流の 2024 年問題も何とかしてほしい」がメッセージだと答えた。「残業規制で収入が減っているので、どちらも早く対応してほしい」と語った。

推論：高市への評価は消費税単独ではなく、物流の 2024 年問題（残業規制・収入減）という別の切実な問題と連動している。消費税への関心は薄く、仕事の問題の方が切実だ。

FD：佐伯の高市評価は「消費税も物流問題も早く対応してほしい」という二重の要求だ。消費税議論を今日初めてちゃんと聞いたという認知レベルが、この薄い当事者感を裏付けている。

【全体総括】

根拠：「1%でも下がるなら、早く始めてほしい」と締めた。「コンビニや外食が多い生活なのでスーパーの食料品の話は正直あまり実感がないですが、下がるなら早い方がいい」と述べた。

推論：佐伯を貫く行動原理は「消費税議論は自分ごとになりにくい、下がるなら早い方がいい」という消極的な賛成」だ。コンビニ・外食中心の生活様式と低い政治関心が重なり、消費税 1% 案への評価が薄い当事者感の中で語られている。

FD：佐伯拓也を特徴づけるのは「消費税ゼロの公約すら知らなかったが、今日初めてレジシステムの理由を聞いて 1%で早く始まる方がいいと思った、コンビニ外食中心の 30 歳物流社員」だ。「実感は薄い、下がるなら早い方がいい」という言葉に、当事者感の薄さと消極的な賛成が同居している。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話しただけで大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

佐伯拓也：結婚して 1 年ちょっとで、まだ二人の生活に慣れてきた感じです。仕事は物流で、シフト制なので生活リズムが不規則で。妻もパートで働いていて、二人とも忙しくて外食やコンビニが多いですね。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

佐伯拓也：えっと……消費税がゼロになるとか言ってましたっけ？あまりニュースを追っていないので、ちゃんと知らないですね。

M：知っていることを教えてください。

佐伯拓也：高市さんが総理になったのは知ってますが、消費税の話はあまり聞いていなかったです。テレビをあまり見ないので。

M：その話を聞いた時、どんな気持ちでしたか？

佐伯拓也：ゼロになるって聞いたら「へえ、そうなんだ」という感じです。でも実感がないというか。コンビニとか外食が多いので、スーパーで食材買う機会がそんなにないので。

M：食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

佐伯拓也：1%でも下がるなら、まあ助かりますね。コンビニでも食料品はありますし。

M：なぜそう思いますか？

佐伯拓也：下がれば少しでも安くなるじゃないですか。1%でも積み重なると、ちょっとくらいは変わるかなと。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

佐伯拓也：すみません、ちゃんと知らなかったです。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

佐伯拓也：ゼロじゃないんですね。なんか残念ですが、ゼロって難しそうだなとも思うので。

M：1%になったとしたら評価しますか？

佐伯拓也：下がるのは良いことだと思います。

M：0 にできない理由について知りたいですか？

佐伯拓也：気になりますね。

M：なぜ 1%という議論が出ているか、ご存知ですか？

佐伯拓也：知らないです。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

佐伯拓也：ああ、そういうことなんですね。機械の問題か。物流の仕事してるんでシステムの更新には時間がかかるっていうのはわかります。ならゼロより 1%で早く始まる方がいいですね。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

佐伯拓也：そうですね。早い方がいいです。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

佐伯拓也：早く決めてほしいですね。検討中だと先が見えないので。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

佐伯拓也：食料品が 8%で他が 10%というのはレシートで見えて知っています。消費税がどこに使われているかとかはよくわかりませんが。

M：まずご家族の食費・生活費という立場から、どう感じますか？

佐伯拓也：二人でコンビニとか外食が多いので、スーパーで食材を買うことがあまりないんです。食費は月 3〜4 万円くらいかな。消費税が下がっても、コンビニや外食には関係ないですよ。スーパーで買うものの消費税が下がるということで、そこはちょっと影響が薄いかな。

M：その情報はどこから？

佐伯拓也：自分のレシートを見ている感じです。ニュースはあまり追っていないので。

M：何か実感として感じているものはありますか？

佐伯拓也：物価が上がっているのはコンビニでも感じます。同じものが高くなっていますね。

M：それについてはどう思いますか？

佐伯拓也：値段が上がると困りますよ。消費税が下がれば少し楽になるのかな、とは思いますが。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

佐伯拓也：総理になったのは知ってます。女性の総理ってのが印象ですね。それ以上はあまり追っていないくて。

M：物流の仕事をされているお立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

佐伯拓也：物流の仕事は 2024 年問題があって、残業規制とかで現場が大変なんですよね。そっちの方が正直気になります。消費税の話は.....下がったら助かるくらいの感覚で。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

佐伯拓也：下げようとしているのは良いと思います。今日の話でレジの理由もわかりましたし。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

佐伯拓也：「1%でも早く始めてほしい。物流の 2024 年問題も何とかしてほしい」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

佐伯拓也：消費税が下がるのはありがたいですし、仕事の方でも残業規制で収入が減っているの、どちらも早く対応してほしいです。

締め

M：奥様とこういう話をすることはありますか？

佐伯拓也：妻とはあまりこういう話をしないですね。二人とも忙しくて。消費税の話は今日初めてちゃんと聞いた感じです。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

佐伯拓也：「1%でも下がるなら、早く始めてほしい」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

佐伯拓也：レジシステムの理由を聞いて、1%で半年早く始まるならその方がいいと思いました。コンビニや外出が多い生活なのでスーパーの食料品の話は正直あまり実感がないですが、下がるなら早い方がいい。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

佐伯拓也：消費税の話は今日初めてちゃんと聞きました。ゼロって言ってたのは知らなかったし、1%案になった理由も初めて知りました。コンビニ中心の生活なので実感は薄いですが、食料品全体で下がれば少しは変わるかなと思います。

M：ありがとうございました。

No.29 「食料品 1%案は生活者として助かる」——中小企業の資金繰りと消費税に長年苦しむ 47 歳製造業社長

対象者プロフィール

氏名	中村 俊夫
居住地	東京都立川市
年齢・性別	47 歳・男性
職業	中小企業社長（製造業・従業員 15 名）
家族構成	妻・子 2 人（18 歳・15 歳）
政治関心/知識	高／中

3 分ブリーフィング

【1. 導入＋Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「生活者として食費が下がるのは助かりますが、仕事柄、税率が変わると取引先との価格交渉が発生する」と述べた。レジシステムの理由に「経営者として、システム移行には時間とコストがかかるのはよくわかります。財政の問題でないなら、別の意味で安心しました。1%で半年早く始まるなら、その方が合理的ですね」と応じた。

推論：消費税議論を「生活者」と「経営者」の二つの立場から同時に評価している。レジシステムの説明で「財政の問題でない」とわかり「安心した」と述べており、財源への懸念が最大の関心事だったことがわかる。即座に合理性を認め、次の問いに移る判断の速さが特徴だ。

FD：中村にとって消費税 1%案への賛成は「生活者として食費が助かる、経営者として財政の問題でない」とわかり安心した」という二つの納得から成っている。財政への懸念が解消されたことで、賛成への障壁が一つ取り除かれた。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「妻が月 7～8 万円で家族 4 人の食費を管理しています。子どもの大学受験もあって教育費がかさむ時期なので、少しでも助かります」と述べた。「仕事の視点と生活者の視点、両方から消費税を見ています」と語った。

推論：消費税への知識は経営者として高く、事業と家庭の両面から消費税を見ている。家計では教育費が最大の圧力であり、食費の消費税が「助かる」と認識されている。消費税の納付タイミングが資金繰りに影響するという経営者固有の悩みが並走している。

FD：中村における消費税は「生活者と経営者の両方の立場が交差する問題」だ。家庭では教育費を抱えた生活者として、職場では資金繰りを担う経営者として、消費税を二重に経験している。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「食料品 1%案は助かります。中小企業の消費税の資金繰り問題も忘れないでください」がメッセージだと答えた。

推論：高市への評価は食料品消費税と中小企業の消費税問題という二つの観点から語られている。生活者として食料品 1%案に賛成しながら、経営者として中小企業の消費税問題という別の課題を提示している。

FD：中村の高市評価は「食料品の消費税は生活者として助かる、中小企業の消費税問題も忘れないでほしい」という二重の要求だ。生活者と経営者の二つの立場が、それぞれ別の要求を生んでいる。

【全体総括】

根拠：「食料品 1%案は生活者として助かる、システムの理由も今日わかった」と締めた。「財政の問題でないならむしろ安心しました」と述べた。

推論：中村を貫く行動原理は「生活者としての賛成と、経営者としての財政への懸念が同時に存在している」だ。レジシステムの説明で財政問題でないといわかり安堵した場面が、財源への懸念が最大の障壁だったことを示している。

FD：中村俊夫を特徴づけるのは「消費税の資金繰り問題で長年苦しみながら、食料品 1%案を生活者として歓迎し、財源の問題でないといわかって安心した 47 歳製造業社長」だ。「財政の問題でないなら安心した」という言葉に、経営者として財政への懸念がいかに大きかったかが凝縮されている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話しいただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

中村俊夫：会社の方は今、材料費の高騰と納期の問題で頭が痛い状況です。消費税の納付も四半期ごとにありますが、資金繰りに影響するので常に気にしています。家庭では上の子が大学受験なので、そちらも心配ですね。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

中村俊夫：もちろん知っています。高市総理が食料品の消費税をゼロにするという公約を出していたのも、最近 1%案が浮上しているのも把握しています。

M：知っていることを教えてください。

中村俊夫：ゼロという公約が出て、それが 1%案になってきているということですね。経営者として消費税の動向には敏感なので、この話は追っています。ただ食料品に限った話で、一般の消費税とは別だと理解しています。

M：その話を聞いた時、どんな気持ちでしたか？

中村俊夫：生活者として食費が下がればありがたいとは思いましたが、経営者として消費税の話は複雑な思いがあつて。

M：ご家庭の食費という観点ではいかがですか？

中村俊夫：妻が家計を管理していて、食費は月 7～8 万円くらいかかっています。消費税が 1%でも下がれば助かりますよ。

M：食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

中村俊夫：生活者として助かります。ゼロより少ないですが、1%でも下がれば年間で相応の金額になりますし。

M：なぜそう思いますか？

中村俊夫：子どもの大学受験もあつて教育費がかかる時期なので、食費が少しでも安くなれば助かります。

M：ゼロにするという公約があつたのですが、覚えていますか？

中村俊夫：覚えています。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

中村俊夫：経営者の立場で言うと、ゼロは仕組みが複雑になって混乱すると思っていたので、「やっぱり」という感じです。

M：1%になったとしたら評価しますか？

中村俊夫：生活者として評価します。理由があれば納得できます。

M：0 にできない理由について知りたいですか？

中村俊夫：ぜひ聞きたいです。

M：なぜ 1%という議論が出ているか、ご存知ですか？

中村俊夫：知らないです。財政的な理由かと思っていましたが。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

中村俊夫：システムの問題ですか。なるほど。経営者として、システム移行には時間とコストがかかるのはよくわかります。財政の問題でないなら、別の意味で安心しました。1%で半年早く始まるなら、その方が合理的ですね。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

中村俊夫：そうです。生活者として早い方がありがたい。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

中村俊夫：早く決めてほしいですね。不確実性が続くと、経営の計画も立てにくいですし。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

中村俊夫：経営者なので消費税の仕組みは熟知しています。ただ今日は家庭の話ですよね。食料品が8%で他が10%というのは知っています。家庭の食費という観点では、消費税が下がれば月の出費が減って助かります。

M：まずご家族の食費という立場から、どう感じますか？

中村俊夫：妻が月7～8万円で家族4人の食費を管理しています。消費税が1%下がれば年間で1万円近く節約になります。子どもの教育費がかさむ時期なので、少しでも助かります。

M：その情報はどこから？

中村俊夫：妻から聞いています。会社の経費管理と家計は別で、家庭は妻任せです。

M：何か実感として感じているものはありますか？

中村俊夫：材料費の値上がりは仕事で実感しています。食費も妻が「高くなった」と言っていますね。

M：それについてはどう思いますか？

中村俊夫：消費税が下がれば少し楽になります。経営の方では材料費の上昇で苦しいですが、家庭では食費が少しでも下がれば助かります。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

中村俊夫：就任前から経済政策に積極的という印象でした。消費税ゼロの公約は「大きく出たな」と思いましたが、経営者として現実的に難しいだろうとは思っていました。

M：中小企業の経営者のお立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

中村俊夫：中小企業の資金繰りが一番気になります。消費税の納付タイミングで資金繰りが厳しくなることが長年の悩みで。食料品の消費税の話は生活者として助かりますが、中小企業の消費税の仕組みについても改善してほしいというのが本音です。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

中村俊夫：方向性は良いと思います。今日のシステムの理由を聞いて、1%案には納得しました。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

中村俊夫：「食料品 1%案は助かります。中小企業の消費税の資金繰り問題も忘れないでください」ですね。

M：なぜそう言いたいのですか？

中村俊夫：食料品の消費税が下がることは家庭として助かりますし、従業員を抱える経営者として、中小企業の消費税の問題も長年の課題なので。

締め

M：奥様とこういう話をすることはありますか？

中村俊夫：します。妻は「食費が安くなるならありがたい」と言っていました。私が会社の消費税の話をして「難しい話はわからない」と言われますが。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

中村俊夫：「食料品 1%案は生活者として助かる、システムの理由も今日わかった」ですね。

M：なぜそう思いますか？

中村俊夫：今日初めてレジシステムの理由を聞いて、財政の問題でないならむしろ安心しました。生活者として 1%でも早く始まる方が助かります。経営者としての消費税の悩みは別の問題ですが。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

中村俊夫：食料品の消費税 1%案は生活者として賛成です。ただ中小企業の消費税問題は別の課題として残っているので、そちらも合わせて考えてほしいですね。

M：ありがとうございました。

No.30 「消費税 1%案は現実的な判断、財源論とセットで見たい」 ——食費より所得税・社会保険が気になる IT 管理職 42 歳

対象者プロフィール

氏名	近藤 直樹
居住地	東京都多摩市
年齢・性別	42 歳・男性
職業	会社員（IT・管理職）
家族構成	妻（会社員）・子 1 人（9 歳）
政治関心/知識	中／中

3 分ブリーフィング

【1. 導入+Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「消費税より所得税や社会保険の方が家計への影響が大きいなと感じているので、食料品の消費税議論への関心はそこまで高くない」と述べた。1%案に「政策としては良いと思う。ただ財政への影響や財源論がちゃんとしているかどうかにも気になる」と答えた。レジシステムの理由に「IT 系の仕事をしているので、全国のレジシステムを一斉に変更する大変さはよくわかります。1%で半年早く実現できるなら、確かに現実的な判断だと思います」と応じた。

推論：消費税への評価が生活者の実感ではなく政策の合理性から来ている。IT 管理職の経験からレジシステムの理由に即座に納得しており、技術的な論理で動く構造がある。所得税・社会保険への関心の方が大きいという発言が、消費税議論への距離感を示している。

FD：近藤にとって消費税 1%案への評価は「現実的な政策判断」という政策論での賛成だ。生活者としての切実さより、IT 管理職として技術的な合理性を理解する立場が評価の根拠になっている。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「共働きで世帯年収が 1000 万円超えているので、食費への消費税を節約しようということとはあまりしていない。消費税が 1%変わってもあまり感じないかな」と述べた。「消費税より所得税や社会保険料の方が家計への影響が大きい」と語った。

推論：消費税への知識は平均より高く、財源と社会保障の関係を理解している。食費への消費税の影響が小さく、むしろ所得税・社会保険という別の税目の方が生活実感に直結している。財源論への関心が、単純な「下げれば良い」という評価を留保させている。

FD：近藤における消費税は「家計への影響は小さく、政策として評価する問題」だ。高収入の共働き世帯という生活水準が食料品消費税への当事者感を薄め、代わりに所得税・社会保険という別の関心軸が前面に出ている。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「消費税 1%案の理由はわかった。財源の手当てとデジタルインフラの整備も合わせて進めてほしい」がメッセージだと答えた。「今日のレジシステムの話で日本のインフラのデジタル対応の遅さを改めて感じた」と語った。

推論：高市への評価はレジシステムの話からデジタルインフラの遅れという別の問題に接続している。消費税議論を政策論として見ている IT 管理職らしい評価軸だ。

FD：近藤の高市評価は「1%案の理由はわかったが、財源とデジタルインフラも合わせて進めてほしい」という複合的な要求だ。レジシステムの話が日本のデジタル化の遅さへの問題意識につながっており、IT 管理職としての視点が評価に加わっている。

【全体総括】

根拠：「消費税 1%案は現実的な判断、ただ財源論とセットで見たい」と締めた。「今日レジシステムの理由を聞いて、1%案になった技術的な理由は納得しました」と述べた。

推論：近藤を貫く行動原理は「消費税を生活者としてではなく政策論として評価し、財源の手当てという別の問いに移る」だ。IT 管理職の技術的な理解がレジシステムの説明への即座の納得を生み、財源という次の問いへの関心が残っている。

FD：近藤直樹を特徴づけるのは「食費への消費税より所得税・社会保険の方が気になるという高収入 IT 管理職として、1%案を現実的な技術的判断として納得しながら、財源論という別の問いに関心を向ける 42 歳」だ。「消費税より所得税・社会保険の方が家計への影響が大きい」という言葉が、この人物の消費税議論への距離感を端的に示している。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話しいただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

近藤直樹：共働きで子どもが 9 歳なので、学校のこととかで忙しいですね。家計的には余裕がある方で、食費を細かく節約するということはあまりしていませんが。IT 系の仕事で最近 AI の波が来ていて、仕事も変化しています。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

近藤直樹：知っています。高市総理が食料品の消費税をゼロにするという公約を出していたのも、最近 1%案が出ているのも知っています。

M：知っていることを教えてください。

近藤直樹：消費税ゼロの公約があって、それが1%案になってきているということですね。個人的には消費税より所得税や社会保険の方が家計への影響が大きいなと感じているので、食料品の消費税議論への関心はそこまで高くないですが。

M：その話を聞いた時、どんな気持ちでしたか？

近藤直樹：1%でも下がれば助かる人はいると思いますが、うちへの影響はそれほど大きくないというのが正直なところです。

M：食料品消費税を1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

近藤直樹：政策としては良いと思います。ただ、財政への影響や財源論がちゃんとしているかどうかにも気になります。

M：なぜそう思いますか？

近藤直樹：消費税を下げることで恩恵を受けるのは主に食費への消費税が重くなる低所得の方だと思います。うちは食費の消費税が1%変わっても生活への影響はほとんどないので、どちらかというと政策論として評価しています。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

近藤直樹：覚えています。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

近藤直樹：驚かないですね。ゼロは財政的に難しかったんだろうと思っていたので。

M：1%になったとしたら評価しますか？

近藤直樹：方向性は評価します。ただ財源の手当てとセットで見たいと思っています。

M：0にできない理由について知りたいですか？

近藤直樹：知りたいです。

M：なぜ1%という議論が出ているか、ご存知ですか？

近藤直樹：知らないです。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約1年かかるためです。0%だと1年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

近藤直樹：ああ、インフラの問題ですね。IT系の仕事をしているので、全国のレジシステムを一斉に変更する大変さはよくわかります。1%で半年早く実現できるなら、確かに現実的な判断だと思います。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

近藤直樹：そうですね。理由がわかれば納得できます。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

近藤直樹：早く決めてほしいですね。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

近藤直樹：食料品が 8%で他が 10%というのは知っています。消費税が社会保障の財源になっているのも。ただ個人的には、家計への影響という意味では消費税より所得税や社会保険料の方が大きいなと感じています。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

近藤直樹：共働きで世帯年収が 1000 万円超えているので、食費への消費税を節約しようということはありません。月の食費は 7~8 万円くらいですが、消費税が 1%変わってもあまり感じないかな。

M：その情報はどこから？

近藤直樹：ニュースや職場の情報から。IT 系なので経済ニュースは追っています。

M：何か実感として感じているものはありますか？

近藤直樹：物価上昇は感じています。外食の値段が上がっていますし。消費税の影響なのか物価全般の問題なのか区別はしていませんが。

M：それについてはどう思いますか？

近藤直樹：消費税が下がることよりも、物価全体の問題の方が気になっています。消費税を下げることで財源が減り、社会保障が削られたら本末転倒だと思うので、財源の手当てが大事だと思います。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

近藤直樹：就任前は経済・安全保障に強い印象でした。消費税ゼロの公約は「大きく出たな」と思いましたが、実現可能性は疑問でした。1%案になったのは現実的な修正という感じです。

M：IT 管理職のお立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

近藤直樹：デジタル化の推進が気になります。IT 系の仕事をしているので、行政のデジタル化がもっと進んでほしい。消費税の話は.....レジシステムの改修が必要という今日の話を聞いて、日本のインフラのデジタル対応の遅さを改めて感じました。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

近藤直樹：方向性は理解します。今日のシステムの話聞いて 1%案の理由は納得しました。財源の話も合わせて説明してほしいですが。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

近藤直樹：「消費税 1%案の理由はわかった。財源の手当てとデジタルインフラの整備も合わせて進めてほしい」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

近藤直樹：消費税を下げることで恩恵を受ける人はいますが、財源がちゃんとしていないと社会全体に影響が出る。それと、今日のレジシステムの話で日本のインフラの対応の遅さを感じたので、デジタル化も合わせてお願いしたいです。

締め

M：奥様とこういう話をすることはありますか？

近藤直樹：妻とはたまにしますね。妻も「食費が下がれば助かるね」と言っていますが、うちは特に切実ではないので話題になることは少ないです。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

近藤直樹：「消費税 1%案は現実的な判断、ただ財源論とセットで見たい」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

近藤直樹：今日レジシステムの理由を聞いて、1%案になった技術的な理由は納得しました。うちへの生活への影響は小さいですが、政策として正しいかどうかは財源の手当てとセットで評価したいです。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

近藤直樹：今日の話でレジシステムの問題を聞いて、日本のインフラのデジタル化の遅さを改めて感じました。消費税 1%案は現実的だと思いますし、こういう技術的な理由の説明をもっと早くしてほしかったです。

M：ありがとうございました。

No.31 「財源じゃなくてレジのシステム問題とわかって納得——1%で半年早く始まる方が毎日買い物する私には助かる 33 歳」

対象者プロフィール

氏名	大串 由美
居住地	東京都八王子市
年齢・性別	33 歳・女性
職業	専業主婦
家族構成	夫（会社員）・子 2 人（4 歳・2 歳）
政治関心/知識	低/低

3 分ブリーフィング

【1. 導入+Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「財源じゃなくてレジのシステムの問題なら、1%で半年早く始まる方が毎日買い物している私には助かる」と述べた。「てっきりお金（財源）の問題かと思っていました」と語り、システムの説明で「それなら納得できます」と評価が変わった。食費を月 7～8 万円と把握しており、「1%になれば月 5,000 円以上変わる」と計算した。

推論：「財源の問題」という誤解が「モヤモヤ」の正体だった。システムの問題という説明でその疑念が解消され、「なら仕方ない、むしろ早く始まる 1%の方が良い」という評価に転じた。毎日スーパーで買い物する専業主婦として、食費節約の影響を最もリアルに実感する立場から語っている。

FD：大串にとって消費税 1%案への賛成は、財源の問題という誤解が解けて「システムなら仕方ない」と納得し、毎日買い物する立場として半年早く始まる 1%を積極的に支持した判断だ。4 歳・2 歳の子どもを育てる今の時期に間に合ってほしいという切実さが底にある。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「毎日スーパーで買い物して自分で実感しています」と述べた。「去年より同じものが高くなっているのがはっきりわかります。卵とか野菜とか、本当に上がりました」と続け、「正直きつい」と語った。

推論：消費税の仕組みへの知識は一般的だが、物価上昇の実感毎日の買い物から直接得ており、情報の精度と切実さが高い。夫一人の収入で家計をやりくりする専業主婦として、節約の限界への実感も明確だ。

FD：大串における消費税は「毎日スーパーで実感する物価上昇の重さ」として語られる。卵・野菜という具体的な商品名が出てくるのは、買い物を通じて物価変化を毎日体感しているからだ。「正直きつい」という言葉に、専業主婦として家計を守る者の本音が出ている。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「毎日買い物をしている立場としてはありがたいと思います」と述べた。「食費の消費税だけじゃなくて、子育て全体を楽にしてほしいです」と続けた。

推論：高市総理への評価は食料品消費税の方向性への歓迎が基調だが、保育園・子どもの医療費という毎日の子育て不安が並行して出てくる。消費税への賛成と子育て支援への要求が並列しており、評価は複層的だ。

FD：大串の高市評価は「食費が下がることは助かる、子育て全体も楽にしてほしい」という子育て中の専業主婦としての複層評価だ。毎日の生活実感から出る要求は消費税の枠を超えており、子育て支援全体への期待として出てきている。

【全体総括】

根拠：「財源じゃなくてレジのシステムの問題なら、1%で半年早く始まる方が毎日買い物している私には助かる」と締めた。「子どもが小さい今の時期に間に合ってほしいです」という言葉が時間的切実さを示している。

推論：大串を貫く行動原理は「4歳・2歳の子どもを育てる専業主婦として毎日スーパーで物価上昇を実感しており、財源の問題という誤解が解けてシステムの問題と知った瞬間に支持が固まり、今の時期に間に合ってほしいという切実さで1%を積極的に選ぶ」だ。

FD：大串由美を特徴づけるのは「毎日スーパーで物価上昇を肌で感じる専業主婦として、財源の問題という誤解が解けてシステムの問題とわかった瞬間に支持が固まり、4歳・2歳の子どもが小さい今の時期に1%でも早く食費を下げてほしいと語った33歳」だ。「てっきりお金の問題かと思っていました」という言葉に、誤解が解けて支持に転じた瞬間が凝縮されている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話しいただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

大串由美：専業主婦で、4歳と2歳の子どもが二人います。八王子に住んでいます。毎日子どもの世話と買い物で忙しくしています。最近は物価が高くて、スーパーで買い物するたびにため息が出ます。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

大串由美：知っています。高市さんが食べ物の消費税をゼロにするって言っていて、最近は1%案が出てきているって聞きました。夫から聞きました。

M：その話を聞いた時、どんな気持ちでしたか？

大串由美：嬉しかったです。毎日スーパーで買い物しているので、食費が下がれば本当に助かります。

M：食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

大串由美：ゼロの方がもちろんいいですが、1%でも今の 8%からかなり下がるので助かります。

M：「助かる」というのは、具体的にどういう意味ですか？毎月の食費で実感できるということですか？

大串由美：そうです。毎月の食費が 7~8 万円くらいかかっていて、8%から 1%になれば月 5,000 円以上変わります。子どもが小さくて出費が多い時期なので、5,000 円でも大きいんです。

M：なぜそう思いますか？

大串由美：4 歳と 2 歳の子どもがいて、夫一人の収入でやりくりしているので、家計が厳しいです。食費は毎日かかるので、少しでも下がれば本当に助かります。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

大串由美：覚えています。ゼロになるなら最高だって思いました。

M：1%になったと聞いて、驚きましたか？

大串由美：残念だなとは思いました。でも、何か難しい理由があるんだろうなとも思っていました。

M：1%になったとしたら評価しますか？

大串由美：評価します。8%より全然いいです。

M：0 にできない理由について知りたいですか？

大串由美：知りたいです。なんでゼロにできないのか気になっていました。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

大串由美：えっ、レジのシステムの話なんですね。てっきりお金（財源）の問題かと思っていました。それなら納得できます。毎日スーパーで買い物しているので、レジって大事だなと実感しています。全国のスーパーを一斉に変えとなれば確かに時間がかかりますよね。それなら 1%で半年早く始まる方がいいです。今の家計には早い方が助かります。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

大串由美：そうです。半年も違えば大きいです。子どもが小さい今の時期に早く始まってほしいです。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

大串由美：早く決めてほしいです。毎日買い物しているので、いつ変わるかはっきりしてほしいです。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

大串由美：食料品が 8%で、お酒とか外食とか他のものは 10%というのは知っています。毎日レシートを見ているので。ただ細かい仕組みはよくわかりません。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

大串由美：月 7～8 万円かかっています。4 歳と 2 歳の子どもがいるので、離乳食とか子ども用の食材とか、大人より気を使うものも買います。物価が上がってから同じ金額では前より少ししか買えなくて。

M：その情報はどこから？

大串由美：毎日スーパーで買い物して自分で実感しています。夫からも「食費が増えた」と言われます。ニュースも見ます。

M：何か実感として感じているものはありますか？

大串由美：毎日感じています。去年より同じものが高くなっているのがはっきりわかります。卵とか野菜とか、本当に上がりました。

M：それについてはどう思いますか？

大串由美：正直きついです。専業主婦なので夫の収入だけでやりくりしているので、物価が上がると節約にも限界があります。消費税が下がれば、少し余裕ができます。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

大串由美：就任した時は女性の総理が生まれたって驚きました。食料品の消費税を下げるという話は、毎日買い物をしている立場としてはありがたいと思います。

M：毎日買い物をする専業主婦という立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

大串由美：食費が下がることは本当に助かります。それと、子育て支援がどうなるかも気になります。保育園が取れるかとか、子どもの医療費とか、毎日の生活で気になることがたくさんあって。食費の消費税だけでなく、子育て全体を楽にしてほしいです。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

大串由美：ゼロという大きな公約を出したのは良かったと思います。1%になったのは残念でしたが、今日の話でシステムの問題とわかって納得しました。方向性は良いと思います。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

大串由美：「毎日スーパーで買い物している立場として、食費が少しでも下がれば本当に助かります。1%でも早く始めてください。それと子育て支援も頑張ってください」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

大串由美：子どもが小さくて出費が多い今の時期に、食費も子育て費用も両方かかっています。消費税が下がって、子育て支援も充実すれば、もう少し余裕を持って子どもを育てられます。

締め

M：ご主人とこういう話をすることはありますか？

大串由美：します。夫が「消費税が下がれば家計が助かるね」と言っていました。夫も家計のことは気にしているので、一緒に考えています。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

大串由美：「財源じゃなくてレジのシステムの問題なら、1%で半年早く始まる方が毎日買い物している私には助かる」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

大串由美：お金の問題でゼロにできないと思っていたので、なんとなくモヤモヤしていました。でもシステムの問題なら仕方ない、むしろ早く始まる1%の方が今の家計には良いと思います。毎日スーパーに行くので、早く変わってほしいです。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

大串由美：今日の話でゼロにできない理由がわかって良かったです。早く確定してほしいです。子どもが小さい今の時期に間に合ってほしいです。

M：ありがとうございました。

No.32 給与は上がらないから、公約と違っても消費税が1%でもありがたい——39歳保育士

対象者プロフィール

氏名	福田 沙織
居住地	調布市（東京都下）
年齢	39歳・女性
職業	保育士（正職員）
世帯年収	約860万（共働き）
家族構成	夫（会社員）・子1人（6歳）
政治関心/知識	中／中

3分ブリーフィング

【Part 1】根拠：1%案を「ゼロじゃないのは残念だが下がるならありがたい」と条件付きで肯定。システム理由を聞いて「保育園でもシステム変更準備がかかるのはわかる、1%の方がいい」と即座に納得した。「早く決めてほしい、生活している側としては」と述べた。／推論：生活者として消費税引き下げの恩恵を実感できる立場にあるが、保育士としての現場感覚が常に並走している。システム理由への納得は職場経験に基づく共感から来ており、感情的な抵抗が少ない。／FD：説明があれば即座に納得できる柔軟性を持つ層。ただし消費税の議論より税の使われ方への関心の方が根底にある。

【Part 2】根拠：「消費税が上がっても子育て支援の現場には届いていない」と強い不満を持つ。食費高騰の原因を消費税と混同しており「食料品は8%のまま」と知って「ちゃんとわかっていなかった」と述べた。「消費税が1%下がるのはありがたいが、保育士の待遇に使ってほしいという気持ちの方が強いかもしれない」と語った。／推論：消費税への評価が「下がってありがたい（生活者）」と「使い道が届いていない（保育士）」の二層構造になっている。食費高騰と消費税の混同は山口賢二・土田正志と共通するが、「なぜ高くなっているのかを知りたい」という知的好奇心がある点が異なる。／FD：消費税の引き下げより「使い道の透明性・現場への還元」を重視する層。生活者としての実利と職業的使命感が並存している。

【Part 3】根拠：高市総理への期待は「女性だから子育て支援に力を入れてくれるのでは」という期待から始まった。メッセージは「現場を見てほしい」「数字より現場を」。「消費税を下げることで、集めた税金をちゃんと現場に届けることの方が大事」と述べた。締めで「下げるより、届けてほしい」と一言でまとめた。／推論：高市総理への評価軸は「女性・子育て支援」という属性的期待から始まっており、政策の中身よりアイデンティティへの共鳴が先にある。「現場の声が政策に反映されているか見えない」という疎外感の前田奈緒子と共通するが、職業的な具体性を持っている点が異なる。／FD：政策の方向性より「現場への還元」が評価軸の核心。消費税1%引き下げより税の使われ方の透明性・現場への届け方を重視する。

【全体総括】根拠：「下げるより届けてほしい」「消費税が下がっても保育士の給与が上がらなければ変わらない」「数字より現場を」という言葉が核心。生活者として食費引き下げを歓迎しながら、保育士として税の使われ方への不満が根底にある。／推論：消費税の引き下げという政策に賛成しながら、その意義を「生活費の軽減」より「税の使われ方の問題」として捉えている。二つの立場（生活者・保育士）が常に並走しており、どちらか一方に収束しない複眼的な評価をしている。／FD：消費税 1%引き下げへの賛成は表層的な評価に留まる層。深層には「子育て支援の現場に税が届いているか」という問いがあり、政策コミュニケーションには使途の透明性と現場への還元実績の提示が響く。

発言録

【導入】

M：福田さん、今日はお時間いただきありがとうございます。正解・不正解はありませんので、日頃感じていることをそのままお話しいただければ大丈夫です。最近の生活で気になっていることや、関心があることは何かありますか？

福田沙織：「保育士をしているんですが、最近は給与の低さが本当に気になっていて。子育て支援って大事だって言われてるのに、現場で働く保育士の待遇が全然追いついていないんですよ。子どもも6歳になって来年小学生なので、教育費のことも考え始めていて。毎日の食費も夫婦共働きでなんとかやっていますが、物価が上がってきついなどは感じています。」

【Part 1】食料品消費税の議論への賛否と理由

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？知っていることを教えてください。

福田沙織：「知っています。高市総理がゼロにするって言ってたやつですよね。1%になりそうだという話も聞いています。」

M：その話を聞いた時、どんな気持ちでしたか？

福田沙織：「ゼロって聞いた時は、素直に嬉しかったです。子どもの食費もかかるし、毎日の買い物で少しでも助かるなら、って。でも1%になりそうと聞いて……「またか」という気持ちはありました。ただ、ゼロより1%の方が早いという話も聞いたので、それならいいかな、とも思っています。」

M：食料品消費税を1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

福田沙織：「ゼロじゃないのは残念ですが、下がるならありがたい。保育士の給与も低くて生活は決して楽じゃないので。夫がいるから何とかなってるけど、ひとりだったらきつかったと思う。」

M：なぜそう思いますか？

福田沙織：「毎日の食費って、積み重なるじゃないですか。子どもが1人いるだけでも、食費ってけっこうかかって。1%でも下がれば、年間で見たらそれなりの金額になるし、ありがたいです。」

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

福田沙織：「覚えています。選挙の時に言っていましたよね。」

M：なぜ驚かなかったのですか？

福田沙織：「政治家の公約って、全部が実現するわけじゃないというのは、なんとなく思っていて。でも今回は、理由があるならわかるかな、という感じです。」

M：では、1%になったとしたら評価しますか？

福田沙織：「評価します。ゼロじゃなくても、動こうとしてくれているのは伝わるので。」

M：0にできない理由について知りたいですか？

福田沙織：「知りたいです。理由があれば納得できるので。」

M：なぜ1%という議論が出ているか、ご存知ですか？

福田沙織：「システムの改修に時間がかかるから、というのを聞いた気がします。」

M：そうです。0%だと1年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

福田沙織：「それなら1%の方がいいと思います。半年早く助かる方が、生活には現実的ですし。保育園でも、システム変更って準備に時間がかかるのはわかるので、そこは納得できます。」

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

福田沙織：「はい。待つより早い方がいいです。毎日の生活なので。」

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

福田沙織：「早く決めてほしいですね。現場で働いていると、政策がなかなか決まらないもどかしさはよくわかるんですが.....生活している側としては、早く決まってほしいという気持ちが正直あります。」

【Part 2】消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税について、日頃どのような知識や情報をお持ちですか？また、どのようにお考えですか？自由にお話してください。

福田沙織：「食料品が8%で、それ以外が10%というのは知っています。消費税って社会保障のためって言われてますよね。保育士をしているので、子育て支援の財源として使われるはずっていうのは知っているんですが.....現場では全然実感がなくて。保育士の給与は低いままだし、保

育園の設備や人員も足りていない。消費税が上がっても、子育て支援の現場には届いていないんじゃないかという感覚がずっとあります。」

M：その情報はどこから？

福田沙織：「職場の同僚との話や、ニュース、あと SNS です。保育士仲間ではよく処遇改善の話をしていて。消費税の使われ方への不満は、現場では共通の話題です。」

M：それについてはどう思いますか？

福田沙織：「正直、怒りに近い気持ちがあります。子育て支援のためって言って税金を取って、でも保育士の給与は上がらない。子どもたちに毎日向き合っている人間への評価がこれでいいのかって。消費税が 1%下がるのはありがたいですが、それより保育士の待遇に使ってほしいという気持ちの方が強いかもしれない。」

M：実感として感じているものはありますか？

福田沙織：「食費が上がってるのは実感しています。スーパーで買い物する時、同じものを買っているのに金額が増えてる。子どもが 6 歳でよく食べるようになってきたので、毎月の食費が気になってきていて。消費税が 1%下がったら、その分を子どもの食費や将来の教育費に回せると思うので、ありがたいです。」

M：スーパーで買い物をする時、食材の値段と消費税って、頭の中で別々に意識していますか？

福田沙織：「.....別々に、か。正直、レジで払う合計額を見ている感じで。8%がいくら、というのは意識していないですね。」

M：最近食費が上がったと感じるのは、消費税が上がったからだと思いますか？それとも食材そのものが高くなっているからだだと思いますか？

福田沙織：「.....言われると、食材が高くなってる気がしますね。卵とか野菜とか。でも消費税も関係してると思ってました。あれ、食料品の消費税って変わってないんでしたっけ？」

M：そうです。食料品の消費税は 8%のままで、ここ数年変わっていません。それを聞いてどう思いますか？

福田沙織：「あ、そうか。じゃあ食費が上がってるのは消費税じゃなくて、食材そのものが高くなってるってことか.....。なんか全部まとめて「高くなった」と感じていたので、消費税も一緒に上がってると思ってました。改めて聞かれると、ちゃんとわけて考えていなかったですね。」

M：食費が高くなってきたと感じ始めたのはいつ頃からですか？

福田沙織：「2〜3 年前からですかね。じわじわ上がってきた感じで。」

M：その時、食費が上がった原因は消費税だと思っていましたか？

福田沙織：「.....そうですね、漠然と消費税のせいかなと思っていた部分はあります。10%になったのがその頃だったし、「税金が上がったから高くなった」という感覚で。でも今聞かれて、食料品は8%のままだったと知って.....じゃあ何で高くなってるんだろうって、改めて疑問になりました。」

M：消費税のせいじゃなかったとわかった今、どんな気持ちですか？

福田沙織：「なんか.....ちゃんとわかっていなかったんだなって。保育士だから子育て支援のことは気にしているけど、消費税の仕組みそのものはよくわかっていなかった。食費が高いのが消費税のせいじゃないなら、何が原因なのかをちゃんと知りたいという気持ちになりました。」

M：保育士の待遇に使ってほしい」という気持ちと、「食費が下がってありがたい」という気持ち、どちらが今は強いですか？

福田沙織：「.....両方あるんですよね。生活者としては食費が下がるのはありがたい。でも保育士としては、消費税の使われ方への不満の方が根っこにある。食費が1%下がっても、職場の状況が変わらなければ、根本的には何も変わっていないという気持ちがあって。」

【Part 3】高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

福田沙織：「変わりました。就任前はあまり知らなかったんですが、消費税ゼロって言ってた人というイメージがついて。女性の総理というのも、保育士として子育て支援に力を入れてくれるんじゃないかという期待がありました。今は.....期待している部分と、「本当に変わるのかな」という不安が半々くらいです。」

M：福田さんは保育士として子育て支援の現場にいる立場から、高市総理についてどんなことが気になりますか？

福田沙織：「消費税を下げてくれるのはありがたいんですが、保育士の処遇改善はどうなるのかというのが一番気になります。子育て支援って言葉は出てくるけど、現場で働く人間の待遇が変わらないと、結局子どもたちへのサービスの質も上がらない。消費税の議論より、そっちの方が切実なんですよ、正直。」

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

福田沙織：「ゼロって言ってくれたのは本気だったんだと思います。1%になりそうとは聞いていますが、理由があるなら仕方ない部分もあるかな、と。ただ.....消費税を下げることで、集めた税金をちゃんと現場に届けることの方が大事なんじゃないかという気持ちもあって。下げるより使い方を変えてほしいという思いがあります。」

M：今の高市総理に一言メッセージを送るとしたら、何と言いますか？

福田沙織：「「現場を見てほしい」です。子育て支援って言葉だけじゃなくて、保育士が毎日子どもたちと向き合っている現場を。消費税が1%下がっても、保育士の給与が上がらなければ、子育て支援の質は変わらない。数字より現場を、と言いたいです。」

M：なぜそう言いたいのですか？

福田沙織：「届いていないと感じるからです。子育て支援のために消費税を使うと言いながら、現場への恩恵が全然見えない。女性の総理だから期待していたんですが.....現場の声が政策に反映されているのかどうか、まだ見えていなくて。」

【締め】

M：ご主人とこういう話をすることはありますか？

福田沙織：「しますよ。夫も「消費税下がるといいね」と言っていて。保育士の待遇の話もたまにするんですが、夫は「大変だね」と言ってくれるけど、深い議論にはならないですね。消費税が1%になりそうという話は、「ゼロじゃないんだ」という感じの反応でした。」

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

福田沙織：「「下げるより、届けてほしい」ですかね。消費税が1%下がることより、集めた税金が子育て支援の現場にちゃんと届くことの方が大事だと、改めて思いました。」

M：なぜそう思いますか？

福田沙織：「消費税が下がっても、保育士の給与が上がらなければ、私の生活も現場の質も変わらないんです。食費が少し安くなることより、毎日一緒に働く仲間の待遇が改善される方が、子どもたちにとっても社会にとっても大事だと思うから。」

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

福田沙織：「今日話して、消費税のことをちゃんとわかっていなかったと気づきました。食費が高くなったのが消費税のせいだと思っていたけど、そうじゃなかった。ちゃんと知った上で考えないといけないなと思いました。消費税が1%になることには賛成ですが、それより税金の使い道をもっと透明にしてほしいです。」

No.33 「ゼロにこだわって1年待つより1%で半年早い方がいい――塾代が月3～4万かかる子育て家庭の41歳」

対象者プロフィール

氏名	菊地 薫
居住地	東京都立川市
年齢・性別	41歳・女性
職業	パート（塾講師）
家族構成	夫（会社員）・子2人（13歳・10歳）
政治関心/知識	中／中

3分ブリーフィング

【1. 導入＋Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「ゼロにこだわって1年待つより、今すぐ少し下がる方が実際の家計には良い」と述べ、「子どもが13歳と10歳で教育費がかかる今の時期に、1%で半年早く始まるならその方が助かります」と語った。食費を月9～10万円と把握しており、「1%になれば月6,000～7,000円変わる」と計算した。

推論：13歳・10歳という子どもの成長が「今の時期に早く」という動機の根拠になっており、塾代・部活費用という具体的な出費が食費節約の使い道として明確に語られた。システムの問題という説明も「たしかに大変ですよね」と自然に受け入れ、ゼロより半年早い1%という選択を実利から支持した。

FD：菊地にとって消費税1%案への賛成は、塾代がかかるようになった13歳・10歳の子育て家庭として今すぐ食費が下がってほしいという切実さから来ている。ゼロへの残念感はあるが、待つより早い1%という実利判断が上回った。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「月9～10万円の食費で、消費税が1%になれば年間で7～8万円変わります」と述べた。「13歳の塾代が月に3～4万円かかっているの、食費が少し下がれば助かります」と続けた。

推論：家計管理を自分でしており、食費と塾代を正確に把握している。消費税の節約額と塾代を同じ文脈で語ることで、食費節約が教育費への振り替えとして具体的に位置づけられている。

FD：菊地における消費税は「月3～4万円の塾代と並べて語られる家計の課題」だ。食費節約の恩恵が教育費という別の支出と直接結びついており、家計全体の中に消費税問題が埋め込まれている。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「子どもの教育費の支援が気になります。塾代が家計にとって重くなっているのでは」と述べた。「教育費の問題の方が今の我が家にとっては大きいです」と続けた。

推論：高市総理への評価は食料品消費税の方向性への好意的な受け入れだが、「教育費の問題の方が大きい」という言葉で消費税への評価が相対化されている。塾代という具体的な負担が家計の最大課題として前景化している。

FD：菊地の高市評価は「食費が下がるのは助かる、でも教育費の方が今は大きな課題」という子育て世帯の優先順位を正直に示した評価だ。消費税への賛成が「部分的な解決」として位置づけられている。

【全体総括】

根拠：「ゼロより 1%で早く始まる方が今の家計には助かる——塾代がかかる子育て世帯には早い方がいい」と締めた。「塾代が月 3～4 万円かかっている」という具体的な数字が評価の根拠にある。

推論：菊地を貫く行動原理は「13 歳・10 歳の子どもの塾代・教育費が重くなっている今の時期に、ゼロより半年早く始まる 1%を実利として選ぶ」だ。教育費という具体的な出費が食費節約の動機と直接つながっている。

FD：菊地薫を特徴づけるのは「塾代が月 3～4 万円かかるようになった 13 歳・10 歳の子育て家庭として、食費節約の恩恵を教育費への振り替えとして具体的に語り、ゼロより半年早い 1%を今の家計に最も良い選択として支持した 41 歳」だ。「教育費の問題の方が今の我が家には大きい」という言葉に、消費税を相対化する子育て家庭の正直な優先順位が出ている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話しいただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

菊地薫：塾でパートとして働いています。夫と子どもが二人、13 歳と 10 歳です。立川に住んでいます。子どもが中学生になって塾代とか部活の費用とかがかかるようになってきて、家計が忙しくなっています。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

菊地薫：知っています。高市総理が食料品の消費税をゼロにするとおっしゃっていて、最近は 1%案が出ているという話は聞いています。

M：その話を聞いた時、どんな気持ちでしたか？

菊地薫：助かると思いました。子どもが育ち盛りで食費がかかるので、少しでも下がれば嬉しいです。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

菊地薫：食費は月 9～10 万円くらいかかっています。13 歳の息子がよく食べるようになってきて、前より食費が増えています。消費税が 1%になれば月 6,000～7,000 円くらい変わりますよね。塾代とか習い事の費用に回せます。

M：食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

菊地薫：良いと思います。ゼロにはなりませんでしたが、8%から 1%は大きな変化です。早く実現してほしいです。

M：なぜそう思いますか？

菊地薫：13 歳と 10 歳の子どもがいて食費がかかる時期で、塾代や部活の費用も出てきています。食費が少し下がれば、その分を教育費に回せます。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

菊地薫：覚えています。ゼロになったら良かったなとは思っています。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

菊地薫：少し残念でしたが、驚かなかったです。ゼロには何か壁があるんだろうと思っていたので。

M：1%になったとしたら評価しますか？

菊地薫：評価します。8%より全然助かります。

M：0 にできない理由について知りたいですか？

菊地薫：知りたいです。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

菊地薫：なるほど、レジのシステムの問題なんですね。それは知りませんでした。全国のスーパーのレジを変えるのはたしかに大変ですね。子どもが 13 歳と 10 歳で教育費がかかる今の時期に、1%で半年早く始まるなら、その方が助かります。ゼロにこだわって 1 年待つより、今すぐ少し下がる方が実際の家計には良いです。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

菊地薫：そうですね。今の家計には早い方がいいです。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

菊地薫：早く確定してほしいです。家計の計画を立てるためにも。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

菊地薫：食料品が 8%で他が 10%というのは知っています。レシートを見れば税率が書いてあるので。ただ細かい仕組みはあまりわかりません。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

菊地薫：月 9～10 万円くらいかかっています。消費税が 1%になれば年間で 7～8 万円変わります。13 歳の塾代が月に 3～4 万円かかっているの、食費が少し下がれば助かります。

M：その情報はどこから？

菊地薫：自分で家計を管理しているので把握しています。スーパーのレシートと家計簿を見ている。

M：何か実感として感じているものはありますか？

菊地薫：物価が上がっているのは実感しています。同じものが前より高くなっているし、子どもの食欲も増えてきているので、食費全体が増えている感覚があります。

M：それについてはどう思いますか？

菊地薫：消費税が下がれば助かります。教育費が増えてきている時期に食費が少し下がれば、家計の余裕ができます。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

菊地薫：就任前から積極的な感じがしていました。食料品消費税の話は家計として良い方向だと思います。

M：13 歳と 10 歳のお子さんを持つ母親という立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

菊地薫：子どもの教育費の支援が気になります。塾代が家計にとって重くなっているの、教育費の支援が充実してほしいです。食費の消費税が下がれば少し助かりますが、教育費の問題の方が今の我が家にとっては大きいです。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

菊地薫：方向性は良いと思います。今日の話でシステムの問題だとわかって、1%案の理由が理解できました。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

菊地薫：「食費が少し下がると助かります。1%案で早く確定してください。それと教育費の支援も充実してほしいです」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

菊地薫：子どもが中学生になって塾代がかかるようになりました。食費が下がるのは助かりますが、教育費の方が家計の大きな課題になってきています。

締め

M：ご主人とこういう話をすることはありますか？

菊地薫：します。夫も「食費が下がれば助かるね」と言っています。家計については二人で相談しています。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

菊地薫：「ゼロより 1%で早く始まる方が今の家計には助かる——塾代がかかる子育て世帯には早い方がいい」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

菊地薫：子どもの塾代や部活の費用がかかる時期に、食費が少しでも早く下がれば助かります。ゼロにこだわって 1 年待つより、1%で半年早い方が実際の生活には良いです。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

菊地薫：今日の話でシステムの問題とわかって良かったです。早く確定してほしいです。教育費の支援も合わせてお願いしたいです。

M：ありがとうございました。

No.34 「1%案は良い一歩、本当に困っている方にはもっと直接的な支援を」——非正規の生活を間近で見る 45 歳人事職

対象者プロフィール

氏名	荒木 智子
居住地	東京都町田市
年齢・性別	45 歳・女性
職業	会社員（正職員・人事）
家族構成	夫（会社員）・子なし
政治関心/知識	高／中

3 分ブリーフィング

【1. 導入+Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「うちへの影響はほとんどないですが、本当に困っている方には大事な話だと思いました」と述べた。1%案に「1%では低所得の方への支援として不十分な面もある気がします。もう少し踏み込んでほしいというのが正直なところで」と答えた。レジシステムの理由に「ゼロにこだわって1年待つより、1%で半年早く始まる方が、困っている方には早く届く。それは良いと思います」と応じた。

推論：消費税議論を自分ごとではなく「本当に困っている方」のこととして評価している。人事職として低所得・非正規の社員の生活実態を知っているため、評価軸が「誰に届くか・いつ届くか」に向いている。レジシステムの説明も「困っている方に早く届く」という他者視点で即座に賛成している。

FD：荒木にとって消費税1%案への賛成は「困っている方に早く届く」という他者視点から来ている。人事職として非正規・低所得者の生活実態を間近で見ているからこそ、自分への恩恵ではなく社会への影響で政策を評価している。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「消費税は逆進性があって、低所得の方ほど収入に対する税負担の割合が高くなる。食料品の消費税を下げることは意味がある」と述べた。「夫と二人暮らしで食費は月5～6万円。消費税が1%変わっても正直そこまで影響はない。本当に苦しい方のことを考えると、この政策の意義は大きい」と語った。

推論：消費税の逆進性という専門的な概念を持ち出すほど、税の本質的な問題を理解している。自分への影響が小さいことを自覚しながら、低所得者への影響という視点で消費税を評価している。人事という仕事が、税の逆進性と格差問題を結びつける視点を育てている。

FD：荒木における消費税は「自分への影響は小さいが、逆進性の観点から低所得者への意義が大きい問題」だ。人事職として社員の生活実態を見ているからこそ、消費税議論が格差問題という大きな文脈に位置づけられている。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「消費税 1%案は良い一歩です。でも本当に困っている方には、もっと直接的な支援も合わせてやってほしい」がメッセージだと答えた。「非正規の低賃金という根本的な問題は変わらない」と語った。

推論：高市への評価は「良い一歩だが不十分」という二層の評価だ。消費税 1%案自体は評価しながら、非正規・低賃金という根本的な問題への対処を求めている。人事職として処遇改善や賃上げを日常的に扱っているため、消費税だけでは解決しない構造的な問題が見えている。

FD：荒木の高市評価は「消費税 1%は良い一歩だが、本当に困っている方への支援は消費税だけでは足りない」という条件付きの支持だ。人事職として非正規・低所得者の生活を間近で見ることから、消費税を社会保障の一部として位置づけて評価している。

【全体総括】

根拠：「消費税 1%案は良い一歩、でも本当に困っている方にはもっと直接的な支援を」と締めた。「逆進性を考えると、できればゼロが理想でした。いずれはゼロに向けて進んでほしい」と述べた。

推論：荒木を貫く行動原理は「消費税議論を自分ごとではなく、困っている人への影響として評価する」だ。人事という仕事が、政策の恩恵が誰に届くかという視点を常に持たせており、自分への影響の小ささと他者への意義の大きさが並走している。

FD：荒木智子の特徴づけるのは「非正規・低所得者の生活を間近で見える人事職として、消費税 1%案を自分への恩恵ではなく困っている方への一歩として評価し、根本的な処遇改善も合わせて求める 45 歳」だ。「本当に困っている方にはもっと直接的な支援を」という言葉に、人事職としての視座が凝縮されている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話いただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

荒木智子：仕事は人事で、最近は賃上げ交渉や非正規の処遇改善など忙しくしています。家庭では夫と二人暮らしで、子どもがいないので比較的余裕のある生活をしています。ただ、人事の仕事をしていると、本当に生活が苦しい社員も多いなと感じています。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

荒木智子：知っています。高市総理が食料品の消費税をゼロにするという公約を出していたのも、最近 1%案が出ているのも把握しています。

M：知っていることを教えてください。

荒木智子：消費税ゼロの公約があつて、それが 1%案になってきているということですね。人事の仕事をしていると、低所得・非正規の社員には消費税が重く押し掛かっているのを感じるのので、この話には関心があります。

M：その話を聞いた時、どんな気持ちでしたか？

荒木智子：うちへの影響はほとんどないですが、本当に困っている方には大事な話だと思いました。

M：食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

荒木智子：1%でも下がるなら、困っている方には助かると思います。うちへの影響は小さいですが。

M：なぜそう思いますか？

荒木智子：人事の仕事をしていると、非正規や低所得の社員の生活が本当に厳しいのを間近で見えています。消費税が 1%でも下がれば、その方たちには確実に助かります。

M：ゼロにするという公約があつたのですが、覚えていますか？

荒木智子：覚えています。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

荒木智子：「まあそういうものか」という感じです。ゼロは政策的に難しかったんだろうと思っていたので。

M：1%になったとしたら評価しますか？

荒木智子：評価します。ただ、1%では低所得の方への支援として不十分な面もある気がします。もう少し踏み込んでほしいというのが正直なところで。

M：0 にできない理由について知りたいですか？

荒木智子：知りたいですね。

M：なぜ 1%という議論が出ているか、ご存知ですか？

荒木智子：知らないです。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

荒木智子：そういう理由なんですね。システムの改修の問題なら納得できます。ゼロにこだわって1年待つより、1%で半年早く始まる方が、困っている方には早く届く。それは良いと思います。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

荒木智子：そうですね。早く届く方が大事だと思います。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

荒木智子：困っている方は今も待っているので、早く決めてほしいですね。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

荒木智子：食料品が8%で他が10%というのは知っています。消費税が社会保障の財源になっているのも。消費税は逆進性があって、低所得の方ほど収入に対する税負担の割合が高くなるという問題があるので、食料品の消費税を下げることに意味があると思っています。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

荒木智子：夫と二人暮らしで食費は月5〜6万円くらいです。消費税が1%変わっても正直そこまで影響はない。ただ、私個人の話というより、本当に苦しい方のことを考えると、この政策の意義は大きいと思っています。

M：その情報はどこから？

荒木智子：ニュースと仕事の情報から。人事で社員の生活実態を見ているので、消費税の問題は人ごとではないですね。

M：何か実感として感じているものはありますか？

荒木智子：物価上昇は感じています。食材も外食も値上がりしているのは実感します。消費税のせいなのか物価全体の問題なのか区別はしていませんが。

M：それについてはどう思いますか？

荒木智子：物価と消費税が重なって、低所得の方の生活が本当に苦しくなっているのを仕事で見えています。消費税1%案はそういう意味で意義があると思いますが、もう少し踏み込んでほしい気持ちもあります。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

荒木智子：就任前は経済に積極的という印象でした。消費税ゼロの公約は「大きく出たな」と思いましたが、実現できるか半信半疑でした。1%案になったのは現実的な修正という感じですが、ゼロにしてほしかったという気持ちもあります。

M：人事の仕事をされているお立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

荒木智子：非正規や低所得の方への支援が一番気になります。消費税を下げることは一つの対策ですが、根本的には賃上げや処遇改善が必要だと思っていて。消費税 1%案は良い一歩ですが、それだけでは不十分だという気持ちがあります。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

荒木智子：方向性は良いと思います。今日のシステムの話聞いて、1%案の理由は理解しました。ただ、本当に困っている方への支援としてはもう少し踏み込んでほしいという気持ちが残っています。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

荒木智子：「消費税 1%案は良い一歩です。でも本当に困っている方には、もっと直接的な支援も合わせてやってほしい」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

荒木智子：人事の仕事をしていると、本当に生活が苦しい方の状況を間近で見えています。消費税 1%が下がっても、非正規の低賃金という根本的な問題は変わらない。消費税の話と合わせて、処遇改善や賃上げ支援も進めてほしいです。

締め

M：ご主人とこういう話をすることはありますか？

荒木智子：します。夫は「消費税が下がれば助かる人はいるよね」と言っていました。うちへの影響は小さいので、どちらかというと社会的な文脈で話すことが多いです。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

荒木智子：「消費税 1%案は良い一歩、でも本当に困っている方にはもっと直接的な支援を」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

荒木智子：今日の話でシステムの原因がわかって、1%で半年早く始まる方が困っている方に早く届くというのは良いと思います。ただ人事の仕事を通じて、低所得・非正規の方の生活の苦しさを見ているので、消費税だけでは解決しない問題もあると感じています。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

荒木智子：消費税 1%案は良い一歩だと思います。ただ逆進性の問題を考えると、できればゼロが理想でした。システムの理由で 1%になったのはわかりましたが、いずれはゼロに向けて進んでほしいとも思います。

M：ありがとうございました。

No.35 「大学費用が重なる今、1%でも半年早く食費が下がれば助かる——受験生も抱える 49 歳専業主婦」

対象者プロフィール

氏名	内山 敦子
居住地	東京都八王子市
年齢・性別	49 歳・女性
職業	専業主婦
家族構成	夫（会社管理職）・子 2 人（19 歳・17 歳）
政治関心/知識	低/低

3 分ブリーフィング

【1. 導入+Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「下の子の受験が来年なので、その前に食費が少し下がれば助かります」と述べ、「1%で半年早く始まる方がいい」と語った。「大学の仕送りと受験費用が重なっている時期なので毎月の固定費が増えている」と続けた。

推論：19 歳・17 歳という子どもの大学・受験という固有のタイムラインが、「今のうちに」という動機の根拠になっている。ゼロへの記憶は薄く、システムの説明も「確かに大変そう、それなら 1%で」と自然に受け入れた。政治への関心は低いが、家計への影響という生活感覚で評価している。

FD：内山にとって消費税 1%案への賛成は、大学仕送りと受験費用が重なる今の時期に食費が少しでも下がってほしいという家計の切実さから来ている。ゼロへの強い期待はなく、早く始まる 1%を穏やかに支持した。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「月 8 万円の食費で、1%になれば年間 5,000～6,000 円くらい違うのでしょうか」と述べた。「大学の仕送りや受験費用が重なっている時期なので、少しでも助かります」と続けた。

推論：消費税への関心は高くなく、節約額の計算も「でしょうか」という確認口調で出てくる。情報源が夫やニュースであり、自分では深く追っていない。節約額は「大きな金額ではない」と自覚しながら、大学・受験費用という大きな出費の中での「少し」として位置づけている。

FD：内山における消費税は「大学費用・受験費用という大きな出費の隣にある、ありがたいが小さな助け」として語られる。「大きな金額ではないですが」という言葉に、主たる課題が教育費にあることが示されている。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「大学の費用や奨学金の制度がどうなるかは気になります」と述べた。「食費の消費税が下がるのは助かりますが、大学の費用の方が今の家計では重いです」と続けた。

推論：政治への関心は低く、高市総理への評価は食料品消費税の方向性への穏やかな受け入れにとどまっている。評価の言葉の多くが大学費用・奨学金という教育費問題に向かっており、消費税は「助かるが、それより大学費用の方が重い」という位置づけだ。

FD：内山の高市評価は「食費が下がるのは助かる、でも大学費用の方が重い」という子どもの大学進学期を迎えた母親としての正直な優先順位だ。消費税への賛成が、より大きな教育費課題の前で相対化されている。

【全体総括】

根拠：「レジのシステムの問題なら仕方ない、1%でも早く下がれば大学費用が重なっている今の家計には助かる」と締めた。「大学の費用の方が今の家計では重い」という言葉が家計の優先順位を示している。

推論：内山を貫く行動原理は「大学仕送りと受験費用が重なる今の時期に教育費が家計の最大課題であり、食費の消費税節約を小さいながらもありがたい助けとして受け取り、早く始まる1%を穏やかに支持する」だ。

FD：内山敦子の特徴づけるのは「大学生と受験生の子どもを抱えて教育費が最重課題の中、食費の消費税削減を小さくともありがたい助けとして受け取り、レジのシステム問題と聞いて素直に納得して半年早い1%を支持した49歳」だ。「大きな金額ではないですが」という言葉に、消費税を相対化する教育費重視の家計感覚が出ている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話しいただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

内山敦子：専業主婦で、子どもが19歳と17歳です。八王子に住んでいます。上の子が大学生になって仕送りが始まり、下の子も来年受験です。家計の出費が今までより多くなっています。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

内山敦子：なんとなく知っています。食べ物の消費税がゼロになるとか、最近は1%になるという話を聞きました。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

内山敦子：食費は月8万円くらいかかっています。物価が上がっているのでスーパーで同じものを買っていても出費が増えている感じがします。消費税が下がれば助かります。

M：食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

内山敦子：良いと思います。8%より低い方が助かります。上の子の大学費用とか下の子の受験費用とか出費が重なっているの、食費が少しでも下がれば助かります。

M：なぜそう思いますか？

内山敦子：大学の仕送りと受験費用が重なっている時期なので、毎月の固定費が増えています。食費が少し下がれば、その分の余裕ができます。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

内山敦子：そういえばそんな話があったような気がします。

M：1%になったと聞いて、驚きましたか？

内山敦子：特に驚かないですね。正直、あまり追いかけていなかったの。

M：1%になったとしたら評価しますか？

内山敦子：評価します。下がれば助かります。

M：0 にできない理由について知りたいですか？

内山敦子：知りたいです。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

内山敦子：そういう理由なんですね。確かに全国のスーパーのレジを変えるのは大変そうです。それなら 1%で半年早く始まる方がいいですね。下の子の受験が来年なので、その前に食費が少し下がれば助かります。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

内山敦子：そうですね。早い方が助かります。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

内山敦子：早く決まってほしいです。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

内山敦子：食料品が 8%で他が 10%というのは知っています。スーパーのレシートを見れば書いてあるので。あまり難しいことはわかりません。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

内山敦子：月 8 万円くらいの食費で、1%になれば年間 5,000～6,000 円くらい違うでしょうか。大きな金額ではないですが、大学の仕送りや受験費用が重なっている時期なので、少しでも助かります。

M：その情報はどこから？

内山敦子：夫から聞いたり、ニュースで見たりです。自分でそこまで追いかけているわけではないですが。

M：何か実感として感じているものはありますか？

内山敦子：物価が上がっているのは感じています。スーパーで以前と同じものが高くなっているのがわかります。食費が増えた気がします。

M：それについてはどう思いますか？

内山敦子：消費税が少しでも下がればありがたいです。大学費用とか受験費用がかかっている時期に食費が下がれば助かります。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

内山敦子：正直、政治のことはあまり追いかけていないですが、食料品の消費税を下げるという話は良いと思います。

M：19 歳と 17 歳のお子さんを持つ母親という立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

内山敦子：大学の費用や奨学金の制度がどうなるかは気になります。上の子が大学生で学費がかかっていますし、下の子も来年から大学です。教育費の支援が充実してほしいです。食費の消費税が下がるのは助かりますが、大学の費用の方が今の家計では重いです。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

内山敦子：方向性は良いと思います。今日の話でシステムの問題だとわかって、なぜ 1%なのか理解できました。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

内山敦子：「食費が少し下がれば助かります。1%でも早く始めてほしいです。それと大学費用や奨学金の制度も充実してほしいです」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

内山敦子：子どもが二人とも大学がらみの時期で、教育費がかかっています。食費が少し下がるのはありがたいですが、大学費用の方が家計への影響が大きいです。

締め

M：ご主人とこういう話をすることはありますか？

内山敦子：します。夫も「食費が下がれば家計が楽になる」と言っています。子どもの教育費の話も一緒にすることが多いです。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

内山敦子：「レジのシステムの問題なら仕方ない、1%でも早く下がれば大学費用が重なっている今の家計には助かる」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

内山敦子：大学の仕送りと受験費用が重なっている今の時期に、食費が少しでも下がれば助かります。システムの問題で半年早く始まるなら1%の方が良いと思います。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

内山敦子：今日の話でシステムの問題だとわかって良かったです。早く確定してほしいです。

M：ありがとうございました。

No.36 「1%でも早く始めてくれれば助かる」——インボイスに振り回されながら食費節約に取り組むフリーランス 36 歳

対象者プロフィール

氏名	石丸 真奈
居住地	東京都府中市
年齢・性別	36 歳・女性
職業	フリーランス（グラフィックデザイナー）
家族構成	夫（会社員）・子なし
政治関心/知識	中／低

3 分ブリーフィング

【1. 導入+Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「フリーランスで収入が不安定なので、固定費が少しでも下がると助かります」と述べた。レジシステムの理由に「インボイスのシステム対応でも大変な思いをしたので、全国のレジを一斉に変えとなれば確かに時間がかかりますよね。それなら 1%で半年早く始まる方がいい」と応じた。

推論：消費税への関心は「食費が下がれば助かる」というシンプルな生活実感から来ている。インボイス対応の苦労からレジシステムの説明に即座に共感しており、自分の経験が論理的な納得につながっている。収入が不安定なフリーランスという立場が「少しでも早く」という切実さを生んでいる。

FD：石丸にとって消費税 1%案への賛成は「フリーランスで収入が不安定な分、食費が少しでも下がれば助かる」という生活の切実さから来ている。インボイス制度の苦労がレジシステムの理由への共感を生み、「早く始まる方がいい」という賛成につながっている。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「フリーランスなので消費税の申告は自分でやっていて、その手続きが大変で」と述べた。「消費税が 1%でも下がれば、年間で数千円変わりますし、それはそれで助かります」と語った。

推論：消費税への知識はフリーランスとして申告を自分でやっているため一般より高い。食料品消費税を食費の節約という生活実感で評価しているが、インボイスという別の消費税問題が自分の最大の関心事として並走している。

FD：石丸における消費税は「食費としては下がれば助かる問題、フリーランスとしてはインボイスという別の問題がある」という二重の意味を持つ。食料品消費税への評価はシンプルだが、インボイスという職業上の問題が消費税議論全体への複雑さを加えている。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「食品の消費税 1%、早く始めてください。あとインボイスの手続きも簡単にしてください」がメッセージだと答えた。

推論：高市への評価は食料品消費税とインボイスという二つの問題で構成されている。食料品消費税は「早く始めてほしい」、インボイスは「簡単にしてほしい」という二重の要求が出ている。

FD：石丸の高市評価は「食品の消費税 1%は早く、インボイスはシンプルに」という二重の要求だ。フリーランスとしての日常がインボイスの苦労と食費の節約の両方を意識させており、消費税議論を二つの側面から体験している。

【全体総括】

根拠：「1%でも早く始めてくれれば助かる」と締めた。「フリーランスで収入が不安定なので、食費が少しでも下がると助かります」と述べた。

推論：石丸を貫く行動原理は「収入が不安定なフリーランスとして、固定費が少しでも下がることへの切実さがある」だ。インボイスで苦労した経験がレジシステムの理由への即座の共感を生み、「早く始まる方がいい」という賛成は自分の経験に根ざしている。

FD：石丸真奈を特徴づけるのは「インボイスで経理の手続きに苦労しながら、1%でも早く食料品消費税が下がってほしいと思うフリーランスデザイナー36歳」だ。「フリーランスで収入が不安定なので固定費が少しでも下がると助かる」という言葉に、生活の切実さが凝縮されている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話しいただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

石丸真奈：フリーランスのデザイナーなので、仕事の波があって大変ですが、夫と共働きで何とかやっています。インボイス制度が始まってから経理の手続きが複雑になって、そちらのストレスが大きいですね。食費は二人なのでそこまで切り詰めていないですが。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

石丸真奈：知っています。高市総理が食料品の消費税をゼロにするという公約を出していたのは聞きました。最近 1%案が出ているというのも。

M：知っていることを教えてください。

石丸真奈：ゼロにするという公約があって、それが 1%案になってきているということですね。フリーランスなので消費税はいろいろ気になっていて。

M：まずご家庭の食費という観点からはどうですか？

石丸真奈：夫と二人暮らしで、食費は月 4～5 万円くらいです。消費税が下がれば少し助かりますね。

M：その話を聞いた時、どんな気持ちでしたか？

石丸真奈：食費が安くなるなら嬉しいですが、「本当にできるのかな」という気持ちもありました。消費税って、上がることはあっても下がることってなかったのです。

M：食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

石丸真奈：ゼロの方が良かったのですが、1%でも下がるなら助かります。

M：なぜそう思いますか？

石丸真奈：少しでも食費が安くなれば、その分を別のことに使えますし。フリーランスで収入が不安定なので、固定費が少しでも下がると助かります。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

石丸真奈：覚えています。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

石丸真奈：まあ、そうなるだろうなという感じです。大きな公約が変わるのはよくあることで。

M：1%になったとしたら評価しますか？

石丸真奈：下がること自体は評価します。

M：0 にできない理由について知りたいですか？

石丸真奈：知りたいですね。

M：なぜ 1%という議論が出ているか、ご存知ですか？

石丸真奈：知らないです。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

石丸真奈：ああ、システムの問題ですか。インボイスのシステム対応でも大変な思いをしたので、全国のレジを一斉に変えとなれば確かに時間がかかりますよね。それなら 1%で半年早く始まる方がいいですね。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

石丸真奈：そうです。早く始まる方がいい。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

石丸真奈：早く決めてほしいですね。インボイスのときも準備が大変だったので、早めに告知してくれると助かります。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

石丸真奈：食料品が8%で他が10%というのは知っています。フリーランスなので消費税の申告は自分でやっていて、その手続きが大変で。ただ今日は食品の消費税の話ですね。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

石丸真奈：夫と二人で食費は月4～5万円です。フリーランスで収入が安定しないので、食費を節約しようとは思っているんですが、なかなか難しくて。消費税が1%でも下がれば、年間で数千円変わりますし、それはそれで助かります。

M：その情報はどこから？

石丸真奈：自分の生活費から計算しています。あとSNSでフリーランス仲間がいろいろ発信しているの。

M：何か実感として感じているものはありますか？

石丸真奈：食材が高くなっているのは実感します。スーパーで同じものを買っても高くなっていますよね。

M：それについてはどう思いますか？

石丸真奈：物価と消費税が重なって、生活コストが上がっているのは実感します。消費税が1%でも下がれば助かりますし、早く決まってくれると助かりますね。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

石丸真奈：就任前は経済に積極的な人というイメージでした。消費税ゼロという公約は「すごいことを言うな」と思っていたんですが、1%案になったのは「やっぱりそうか」という感じです。

M：フリーランスのデザイナーのお立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

石丸真奈：インボイス制度をもっと簡素化してほしいですね。フリーランスには本当に負担が大きくて。消費税の話は食品が下がるのはありがたいですが、インボイスの手続きの複雑さをどうにかしてほしいというのが正直なところです。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

石丸真奈：方向性は良いと思います。今日のシステムの話聞いて、1%案の理由は納得しました。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

石丸真奈：「食品の消費税 1%、早く始めてください。あとインボイスの手続きも簡単にしてください」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

石丸真奈：食費が少しでも下がれば助かりますし、フリーランスとしてインボイスの煩雑さも何とかしてほしい。どちらも早く対応してほしいです。

締め

M：ご主人とこういう話をすることはありますか？

石丸真奈：します。夫は「食品の消費税が下がるなら良いことじゃないか」と言っていました。私がインボイスの愚痴をよく言うので、「消費税の話は複雑だよ」とも言っていました。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

石丸真奈：「1%でも早く始めてくれれば助かる」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

石丸真奈：レジシステムの理由を聞いて、ゼロより 1%で半年早く始まる方がいいとわかりました。フリーランスで収入が不安定なので、食費が少しでも下がると助かります。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

石丸真奈：消費税の話は今日少し整理できました。食品 1%案はシステムの理由でわかりましたし、早く始まってほしいです。フリーランスとしてインボイスの問題は別途何とかしてほしいですが。

M：ありがとうございました。

No.37 「1%で半年早く始まるなら今すぐ始めてほしい」――子どもの成長期の食費節約を願う 44 歳薬剤師パート

対象者プロフィール

氏名	橋本 千鶴
居住地	東京都三鷹市
年齢・性別	44 歳・女性
職業	薬剤師（パート）
家族構成	夫（会社員）・子 2 人（14 歳・11 歳）
政治関心/知識	中／高

3 分ブリーフィング

【1. 導入＋Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「全国のスーパーのレジを一斉に変えるとなれば確かにそれだけ時間がかかりますね。それなら 1%で半年早く実現できる方がいいです」と述べた。「子どもの食費は今すぐ下がってほしいので」と付け加えた。

推論：レジシステムの説明に薬局のシステム変更経験から即座に共感しており、自分の職業体験が論理的な納得につながっている。賛成の根拠が「早く下がってほしい」という子どもの食費への切実さに向いており、政策論よりも生活実感が前面に出ている。

FD：橋本にとって消費税 1%案への賛成は「子どもの成長期に食費が下がってほしい」という母親としての切実さから来ている。薬局でのシステム変更経験がレジシステムの理由への即座の共感を生み、「早ければ早いほど助かる」という賛成につながっている。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「薬剤師として気になるのは、処方薬は消費税が非課税なんですが、薬品を仕入れる時は課税されているので、その差が医療機関の負担になっている」と述べた。「消費税が 1%でも下がれば、年間で数千円から 1 万円近く変わってくるので助かります」と語った。

推論：消費税への知識は薬剤師として高く、医療損税という専門的な問題まで把握している。ただし食料品消費税の評価はシンプルで、「子どもの食費が下がる」という生活実感で判断している。医療の消費税問題と食料品の消費税問題を別々に整理できている。

FD：橋本における消費税は「食料品については生活者として下がれば助かる問題、医療については業界固有の損税問題が並走している」という二重の構造だ。二つの問題を混同せず、それぞれ別の文脈で語ることができている。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「食料品の消費税 1%、早く始めてください。あと医療の消費税の問題も解決してください」がメッセージだと答えた。

推論：高市への評価は食料品消費税と医療損税という二つの消費税問題で構成されている。食料品は「早く始めてほしい」、医療は「解決してほしい」という二重の要求が出ている。薬剤師としての職業意識が、消費税議論を食料品だけでなく医療にまで拡張させている。

FD：橋本の高市評価は「食料品 1%は早く、医療の消費税問題は解決を」という二重の要求だ。母親として子どもの食費節約を望み、薬剤師として医療損税の解消を求めており、生活者と医療従事者の二つの立場が評価の二本柱になっている。

【全体総括】

根拠：「1%で半年早く始まるなら、今すぐ始めてほしい」と締めた。「子どもの食費は今すぐ下がってほしいので」と述べた。

推論：橋本を貫く行動原理は「子どもの成長期に合わせて食費を節約したいという母親としての切実さがある」だ。薬局でのシステム変更経験がレジシステムへの即座の共感を生み、「早く始まるなら 1%でいい」という賛成は自分の体験に根ざしている。医療損税という別の問題も並走しているが、今日の議題としては食料品に集中して整理できている。

FD：橋本千鶴を特徴づけるのは「薬局でのシステム変更経験からレジシステムの理由に即納得し、子どもの食費節約のために 1%でも早く始まってほしいと思う 44 歳薬剤師パート」だ。「子どもの食費は今すぐ下がってほしい」という言葉に、成長期の子を持つ母親としての切実さが凝縮されている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話しただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

橋本千鶴：薬局でパートをしていて、週 4 日、午前中だけ働いています。子どもが中学生と小学生で、下の子はまだ手がかかるので、フルタイムには戻れないですね。夫が会社員なので、家計は安定していますが、食費と教育費が毎月かさみます。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

橋本千鶴：知っています。高市総理が食料品をゼロにするという公約を掲げていたのは覚えています。最近 1%案が出ているということも聞きました。

M：知っていることを教えてください。

橋本千鶴：ゼロにするという大きな公約が、現実的な 1%案になってきているということですよ。薬剤師として医療の消費税の話には敏感なので、消費税の話は気になります。ただ今日は食料品の話ですよ。

M：まずご家庭の食費という観点からはいかがですか？

橋本千鶴：子どもが二人いるので、食費は月 7～8 万円はかかっています。中学生になると食べる量が増えて、本当に食費がかかります。

M：その話を聞いた時、どんな気持ちでしたか？

橋本千鶴：食費が下がれば助かるという気持ちはありました。ゼロになるというのは「本当にできるのかな」と思っていましたけれど。

M：食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

橋本千鶴：ゼロより少ないですけど、1%でも下がるなら助かります。子どもの食費は本当にかかるので。

M：なぜそう思いますか？

橋本千鶴：子どもが成長期で食費が増える一方ですし、教育費もかかります。少しでも食費が下がれば、その分を塾代に回せます。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

橋本千鶴：覚えています。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

橋本千鶴：「やはりそうなるか」という感じです。ゼロは難しいだろうと思っていたので。

M：1%になったとしたら評価しますか？

橋本千鶴：評価します。方向性は良いと思います。

M：0 にできない理由について知りたいですか？

橋本千鶴：知りたいですね。

M：なぜ 1%という議論が出ているか、ご存知ですか？

橋本千鶴：知らないです。財政的な問題かと思っていました。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

橋本千鶴：システムの問題なんですね。薬局でも調剤システムの変更は本当に大変で、スタッフ全員で対応しました。全国のスーパーのレジを一斉に変えとなれば、確かにそれだけ時間がかかりますね。それなら 1%で半年早く実現できる方がいいです。子どもたちの食費も今すぐ下がってほしいので。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

橋本千鶴：そうです。早く始まる方が助かります。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

橋本千鶴：早く決めてほしいですね。子どもへの食費は今も毎月かかっていますし、早く決まった方が助かります。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

橋本千鶴：食料品が 8%で他が 10%というのは知っています。薬剤師として気になるのは、薬局での処方薬は消費税が非課税なんですけど、薬品を仕入れる時は課税されているので、その差が医療機関の負担になっているという問題があつて。食料品とは別の話になりますが。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

橋本千鶴：子どもが二人いて食費が月 7～8 万円です。中学生の上の子は部活をやっているんで、本当によく食べます。消費税が 1%でも下がれば、年間で数千円から 1 万円近く違ってくるので、それは助かります。

M：その情報はどこから？

橋本千鶴：自分で計算しています。毎月の食費を把握しているので、1%変わったらいくら変わるかはすぐわかります。

M：何か実感として感じているものはありますか？

橋本千鶴：食材が高くなっているのは実感しています。特に肉類や野菜が値上がりして、同じものを買っても金額が増えているのは体感しています。

M：それについてはどう思いますか？

橋本千鶴：物価と消費税が重なって生活コストが上がっているのを感じます。消費税が 1%でも下がれば少し楽になりますし、早く決まってほしいと思います。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

橋本千鶴：就任前は経済に積極的なイメージでした。消費税ゼロの公約は「大きいことを言うな」と思いましたが、1%案になったのは現実的な修正という感じです。

M：薬剤師のお立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

橋本千鶴：医療の消費税の問題、いわゆる医療損税の問題を何とかしてほしいというのが正直なところですよ。処方薬は非課税なのに仕入れは課税されているという不整合が長年放置されていて。食料品の消費税の話とは別ですが、医療従事者としてはそちらも気になります。ただ食料品の話で言えば、子どもの食費が下がるのは純粋に助かります。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

橋本千鶴：方向性は良いと思います。今日のシステムの話聞いて、1%案の理由は納得しました。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

橋本千鶴：「食料品の消費税 1%、早く始めてください。あと医療の消費税の問題も解決してください」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

橋本千鶴：食費は毎月かかっていますし、子どもが成長期なので早く実現してほしい。薬剤師として医療損税の問題は現場で感じていることなので、食料品の議論と合わせて医療の問題も進めてほしいです。

締め

M：ご主人とこういう話をすることはありますか？

橋本千鶴：します。夫は「食品の消費税が下がれば助かるね」と言っていました。私が医療の消費税の話をするすると「難しそうだな」と言っていました。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

橋本千鶴：「1%で半年早く始まるなら、今すぐ始めてほしい」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

橋本千鶴：レジシステムの理由を聞いて、ゼロより 1%で早く始まる方が子どもの食費のためにも良いとわかりました。早ければ早いほど助かります。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

橋本千鶴：食料品の消費税の話は今日少し整理できました。システムの理由でゼロより 1%を選んだのはわかりました。医療の消費税の問題は別の話ですが、食料品と医療、両方の消費税の問題を合わせて進めてほしいと思います。

M：ありがとうございました。

No.38 「保育料もかかる今の時期に 1%でも早く食費が下がってほしい——1 歳の子を抱えて復職した 31 歳」

対象者プロフィール

氏名	吉岡 里奈
居住地	東京都日野市
年齢・性別	31 歳・女性
職業	会社員（正職員・事務）
家族構成	夫（会社員）・子 1 人（1 歳）
政治関心/知識	低/低

3 ブリーフィング

【1. 導入+Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「1 歳の子どもがいる今の時期に早く始まってほしいので、1%で半年早いなら、そちらの方が助かります」と述べた。「保育料もかかっていて、食費が少しでも下がれば、その分を子どものために使えます」と語った。

推論：1 歳の子どもと産休からの復職という生活状況が「今の時期に早く」という動機の根拠になっている。保育料という大きな固定費の存在が食費節約への動機を補強しており、消費税節約の使い道が「子どものために」という具体的な目的として出てきた。

FD：吉岡にとって消費税 1%案への賛成は、保育料という大きな固定費に加えて食費もかかる復職間もない時期に、少しでも家計に余裕を作りたいという切実さから来ている。1%で半年早いという選択は「子どものために使える余裕」という動機と一致している。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「月 6～7 万円の食費で、1%になれば毎月 4,000～5,000 円くらい違う。保育料が月 5～6 万円かかっているの、それと比べると小さいですが」と述べた。

推論：保育料（月 5～6 万円）と食費節約（月 4,000～5,000 円）を自ら比較しており、消費税節約額の相対的な小ささを自覚している。「子どもが生まれてから特に気になるようになった」という言葉に、育児が家計意識を高めた転機が示されている。

FD：吉岡における消費税は「保育料という大きな固定費と並べると小さいが、それでも助かる家計の余裕」として位置づけられている。育児が始まってから食費の内訳に初めて関心を持つようになったという意識の変化が語られた。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「保育所が増えてほしいです。子育てしながら働くための環境が整ってほしいです」と述べた。「食費の消費税が下がるのはありがたいですが、保育の環境の方が今の生活で気になっています」と続けた。

推論：政治への関心は低いですが、保育所という日常の生活課題が高市総理への評価の中に自然に出てくる。消費税への賛成と保育所増設への要求が並列しており、食費節約より保育環境の方が今の生活課題として大きい。

FD：吉岡の高市評価は「食費が下がるのはありがたい、でも保育所の環境整備の方が今の生活では切実」という復職間もない母親の正直な優先順位だ。消費税への賛成が、保育環境という目の前の課題の前で相対化されている。

【全体総括】

根拠：「1歳の子がいる今の時期に1%でも早く食費が下がってほしい——保育料もかかる中での小さな助けでも嬉しい」と締めた。「両方大事です」という言葉が食費節約と保育環境の双方への関心を示している。

推論：吉岡を貫く行動原理は「産休から復職したばかりで保育料と食費が重なる今の時期に、小さくても助かる消費税節約を歓迎しながら、保育環境という日常の最大課題も同時に訴える」だ。

FD：吉岡里奈を特徴づけるのは「保育料月5～6万円と食費月6～7万円が重なる1歳児の母として、消費税節約が小さい金額であっても子どものために使える余裕として歓迎し、1%で半年早く始まる方を選んだ31歳」だ。「保育料もかかる中での小さな助けでも嬉しい」という言葉に、育児と家計の両重荷を抱える母親の本音が出ている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話しただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

吉岡里奈：会社で事務の仕事をしています。夫と1歳の子供がいます。日野市に住んでいます。産休から復職したばかりで、保育園の送り迎えと仕事でバタバタしています。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

吉岡里奈：知っています。食べ物の消費税が下がるという話ですよね。ゼロにするという話があって、最近では1%という話も聞きました。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

吉岡里奈：食費は月 6〜7 万円くらいかかっています。1 歳の子どもの離乳食も含めて。物価が上がっているの、同じものが前より高くなっているのを感じます。消費税が下がれば助かります。

M：食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

吉岡里奈：良いと思います。8%から 1%になれば助かります。子どもの離乳食とか、食費が結構かかるので。

M：「助かる」というのは、家計の余裕ができるという意味ですか？

吉岡里奈：そうです。保育料もかかっている、食費が少しでも下がれば、その分を子どものために使えます。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

吉岡里奈：なんとなく覚えています。ゼロになったら嬉しいなと思っていました。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

吉岡里奈：少し残念ですが、驚かなかったです。何か理由があるんだろうと思っていたので。

M：1%になったとしたら評価しますか？

吉岡里奈：評価します。8%よりは全然いいです。

M：0 にできない理由について知りたいですか？

吉岡里奈：知りたいです。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

吉岡里奈：そういう理由なんですね。全国のスーパーのレジを変えるのは確かに大変そうです。1 歳の子どものいる今の時期に早く始まってほしいので、1%で半年早いなら、そちらの方が助かります。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

吉岡里奈：そうですね。早い方が嬉しいです。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

吉岡里奈：早く決めてほしいです。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

吉岡里奈：食料品が8%で他が10%というのは知っています。レシートを見ればわかるので。特に詳しいわけではないですが。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

吉岡里奈：月6～7万円の食費で、1%になれば毎月4,000～5,000円くらい違いますよね。保育料が月5～6万円かかっているの、それと比べると小さいですが、少しでも下がれば助かります。

M：その情報はどこから？

吉岡里奈：ニュースで見ました。夫とも話しています。

M：何か実感として感じているものはありますか？

吉岡里奈：物価が上がっているのは感じています。子どもが生まれてから特に気になるようになりました。離乳食とか子ども用の食材を買うようになって、食費の内訳が気になるようになりました。

M：それについてはどう思いますか？

吉岡里奈：消費税が少しでも下がれば助かります。保育料も食費も両方かかっている時期なので。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

吉岡里奈：正直、政治はあまり詳しくないですが、食料品の消費税の話は良いと思います。子育て中の家庭には助かります。

M：1歳のお子さんを育てながら復職されたばかりという立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

吉岡里奈：保育所が増えてほしいです。保育園の待機児童の問題とか、子育てしながら働くための環境が整ってほしいです。食費の消費税が下がるのはありがたいですが、保育の環境の方が今の生活で気になっています。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

吉岡里奈：方向性は良いと思います。今日の話でシステムの問題だとわかって、1%案の理由が理解できました。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

吉岡里奈：「食費が少し下がれば助かります。1歳の子どもがいる今の時期に早く始めてほしいです。保育所も増やしてください」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

吉岡里奈：子育てしながら働くために保育所が必要ですし、食費が下がれば家計に余裕ができます。両方大事です。

締め

M：ご主人とこういう話をすることはありますか？

吉岡里奈：します。夫も「食費が下がれば助かる」と言っています。二人で家計の話をよくしています。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

吉岡里奈：「1歳の子がいる今の時期に1%でも早く食費が下がってほしい——保育料もかかる中での小さな助けでも嬉しい」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

吉岡里奈：保育料が月5～6万円かかっていて、それに加えて食費もかかります。食費が少しでも早く下がれば、その分を子どものために使えます。システムの問題で半年早いなら1%の方が良いです。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

吉岡里奈：今日の話でシステムの問題だとわかって良かったです。早く確定してほしいです。

M：ありがとうございました。

No.39 「毎日レジを打ちながら、1%でも早く始まってほしいと思っています」――五人家族の食費を担う 47 歳スーパーパート

対象者プロフィール

氏名	今村 美加
居住地	東京都多摩市
年齢・性別	47 歳・女性
職業	パート（スーパーのレジ）
家族構成	夫（自営業）・子 3 人（20 歳・17 歳・14 歳）
政治関心/知識	低/低

3 分ブリーフィング

【1. 導入＋Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「私みたいな者が意見を言うのも、という感じがして」と最初に遠慮を述べた。レジシステムの説明に「私毎日レジを打っているので、それが大変なのはよくわかります。うちの店でも新しいシステムに変わった時は、慣れるまで大変でしたから」と応じた。

推論：「私みたいな者」という言葉が冒頭と後半に二度出ており、意見を持つことへの自己抑制がある。しかしレジシステムの説明は自分の職業体験と完全に一致しており、その場面では自信を持って「大変なのはよくわかります」と言えている。自分の仕事に直結した話題でのみ、遠慮が解除される構造がある。

FD：今村にとって消費税 1%案への賛成は「五人家族の家計への切実さ」と「毎日レジを打つ職業体験」の両方から来ている。「私みたいな者が」という遠慮を持ちながら、レジシステムという自分の職場の話題では自信を持って語ることができた。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「食料品が 8%で、お酒とか日用品は 10%というのはレジを打っているのでよくわかります。お客さんのカゴを見ながら「これは 8%、これは 10%」って確認するので」と述べた。「消費税の仕組みというか、どこに使われるかとかは正直よくわからなくて」と続けた。

推論：税率の区分という実務的な知識はレジの仕事で体得しているが、消費税の制度・財源への理解は低い。食費への影響を「年間 1 万円以上」と自分で計算していることから、家計管理は実感に基づいている。お客さんの購買行動の変化というレジ特有の観察から、物価上昇の影響を実感している。

FD：今村における消費税は「レジの仕事で 8%と 10%の区別は体得しているが、制度・財源はわからない」という実務知識と政策理解のギャップが特徴だ。自分の家計とお客さんの様子という二つの視点から物価上昇の影響を実感しており、消費税への関心は生活直結型だ。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「食料品の消費税、早く 1%にしてください。毎日レジを打ちながら応援しています」がメッセージだと答えた。「私みたいな者が意見を言うのもおかしいですが」と加えた。

推論：「毎日レジを打ちながら応援しています」という表現に、レジという自分の仕事場から政治を見ているリアリティがある。「私みたいな者が」という遠慮がメッセージの末尾にも現れており、政治へのアクセス感の低さが一貫している。

FD：今村の高市評価は「毎日レジを打ちながら応援する」という言葉に集約されている。遠慮を持ちながらも、レジという現場から見た物価上昇の実感が、消費税 1%案への素直な賛成に直結している。

【全体総括】

根拠：「レジのことはよくわかった、早く 1%にしてほしい」と締めた。「うちの家計も、お客さんも早い方が助かりますから」と述べた。

推論：今村を貫く行動原理は「『私みたいな者』という自己抑制を持ちながらも、五人家族の家計とレジの仕事の両方から消費税への切実さを持っている」だ。レジシステムの説明が自分の職業体験と一致した瞬間だけ、遠慮が解除されて自信を持って語ることができた。

FD：今村美加を特徴づけるのは「『私みたいな者が』という遠慮を持ちながら、毎日レジを打つ現場から物価高を肌で感じ、1%でも早く始まってほしいと願う 47 歳のパート女性」だ。「毎日レジを打ちながら応援しています」という言葉に、レジという現場から政治を見る生活者の視点が凝縮されている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話しただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

今村美加：スーパーでレジのパートをしています。毎日いろんなお客さんのお買い物を見ているので、食材の値段がどんどん上がっているのをひしひしと感じています。夫が自営業なので収入の波があって、子どもが三人いるので生活はなかなか大変です。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

今村美加：うーん、何となくは聞いていますが.....私みたいな者が意見を言うのも、という感じがして。食品の税金が下がるかもしれないというのは聞きました。

M：知っていることを教えてください。

今村美加：食料品の消費税が下がるかもしれないという話ですよね。高市総理がゼロにするって言っていたけど、なかなか難しいということでしょうか。

M：ご家庭の食費という観点からはどうですか？

今村美加：五人家族なので食費は月 9～10 万円くらいかかっています。子どもが三人いるので本当にかかります。一番上はもう成人していますが、まだ家にいるので。少しでも安くなれば助かります。

M：その話を聞いた時、どんな気持ちでしたか？

今村美加：下がれば嬉しいですけど、本当に下がるのかなという半信半疑な気持ちです。いつも税金って上がることはあっても、下がることってないですよね。

M：食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

今村美加：1%でも下がれば助かります。私みたいに家族が多いと、1%でもけっこう違いますよ。

M：なぜそう思いますか？

今村美加：毎日レジを打っていると、お客さんが「高くなったわね」ってよく言うんです。私も家に帰れば同じことを思っていますし。少しでも下がれば、うちも他の家庭も助かると思います。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

今村美加：そういえば覚えています。ゼロになるって聞いた時は「本当に？」って思いました。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

今村美加：まあ、ゼロは無理だったのかな、という感じです。

M：1%になったとしたら評価しますか？

今村美加：はい、それでも下がるなら嬉しいです。

M：0 にできない理由について知りたいですか？

今村美加：はい、知りたいです。

M：なぜ 1%という議論が出ているか、ご存知ですか？

今村美加：知らないです。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

今村美加：あ、そうなんですか！レジのシステムを変えないといけないんですね。私毎日レジを打っているので、それが大変なのはよくわかります。うちの店でも新しいシステムに変わった時は、慣れるまで大変でしたから。半年早く始まるなら 1%の方がいいですね。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

今村美加：そうです。早く始まってほしいです。うちの家計も早い方が助かりますし。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

今村美加：早く決めてほしいですね。毎日レジを打ちながら「いつ変わるんだろう」って気になっています。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

今村美加：食料品が 8%で、お酒とか日用品は 10%というのはレジを打っているのでよくわかります。お客さんのカゴを見ながら「これは 8%、これは 10%」って確認するので。でも消費税の仕組みというか、どこに使われるかとかは正直よくわからなくて。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

今村美加：五人家族で食費が月 9～10 万円です。夫の仕事の波があって、収入が少ない月は本当に食費をやりくりしています。消費税が 1%でも下がれば年間で 1 万円以上節約できると思って、それはかなり大きいです。

M：その情報はどこから？

今村美加：自分で計算しました。食費の金額を毎月把握しているので、1%の差がいくらになるかはすぐわかります。

M：何か実感として感じているものはありますか？

今村美加：レジを打っていると値段が上がっているのが本当によくわかります。同じ商品でも値上がりしているのをお客さんに指摘されることもあって。私も買う立場になると同じことを感じます。

M：それについてはどう思いますか？

今村美加：値段が上がっているのは消費税だけの問題じゃないと思うんですが、消費税が下がれば少しでも楽になると思います。特に子どもが多い家庭とか、収入が少ない家庭には助かりますよね。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

今村美加：就任前はあまり詳しくなかったんですが、食料品の消費税をゼロにするという話を聞いて、庶民の生活を考えてくれている人だなという印象を持ちました。1%案になったのはちょっと残念ですけど、それでも頑張っているのかなと思います。

M：スーパーのレジのお仕事をされているお立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

今村美加：毎日レジを打っていると、物価が上がって困っているお客さんをよく見ます。お客さんが「高くなったから量を減らしました」って言う場面も多くて。そういう人たちのことを政策で助けてほしいなと思います。私みたいな者が意見を言うのもおかしいですが。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

今村美加：「食料品の消費税、早く 1%にしてください。毎日レジを打ちながら応援しています」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

今村美加：レジのシステムの理由がわかって、1%で半年早く始まるなら早い方がいいとわかりました。うちも早く助かりたいですし、お客さんも助かると思うので。

締め

M：ご主人とこういう話をすることはありますか？

今村美加：します。夫は「食品が安くなるなら良いことだ」と言っていました。夫の仕事が波があるので、少しでも食費が下がれば楽になるよねという話をしました。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

今村美加：「レジのことはよくわかった、早く 1%にしてほしい」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

今村美加：毎日レジを打っているのでシステムの話はよくわかりました。1%で半年早く始まるなら、その方がいいです。うちの家計も、お客さんも早い方が助かりますから。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

今村美加：今日話を聞いてみて、食料品の消費税の話がいろいろ考えられているんだなとわかりました。私みたいな者でも少し役に立てたなら嬉しいです。

M：ありがとうございました。

No.40 「1%案の理由はわかった、早く決めて早めに告知を」—— 制度変更のたびに社内対応を担う 43 歳総務職

対象者プロフィール

氏名	長坂 幸子
居住地	東京都八王子市
年齢・性別	43 歳・女性
職業	会社員（正職員・総務）
家族構成	夫（会社員）・子 2 人（13 歳・10 歳）
政治関心/知識	中／中

3 分ブリーフィング

【1. 導入+Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由】

根拠：「総務の仕事をしていると、制度が変わるたびに社内システムや書類を更新する役割があるので」と述べた。レジシステムの説明に「総務の仕事で社内のシステム変更を担当していると、その大変さはよくわかります。全国のレジを一斉に変えらなければならないとすれば、確かに 1 年はかかりますね」と応じた。

推論：「仕事目線も同時に浮かびました」という発言から、生活者と業務担当の二つの視点が同時に走っていることがわかる。ただしレジシステムの説明は生活者視点への引き戻しなく、業務経験から即座に納得している。仕事の経験が論理的な賛成を生んでおり、生活実感とは別の回路で動いている。

FD：長坂にとって消費税 1%案への賛成は「家計への助かり」と「システム変更の合理性への理解」の二つから来ている。総務として制度変更のたびにシステム対応を行ってきた経験が、レジシステムの説明への即座の共感を生んでいる。

【2. Part 2：消費税についての認知・考え】

根拠：「総務の仕事で経費精算や請求書を扱っているので、消費税の扱いは日常的に意識しています」と述べた。「消費税が 1%でも下がれば年間で数千円の節約になりますし、助かります」と語った。

推論：消費税の実務知識は総務として高いが、政策・財源への評価よりも「制度が決まれば仕事の準備ができる」という実務者目線が前面に出ている。家計への影響は共働きで安定しているため切実さは中程度だが、「早く決まってほしい」という動機が仕事と家計の両方から出ている。

FD：長坂における消費税は「家庭では節約の問題、仕事では制度変更対応の問題」という二重の意味を持つ。総務という仕事が消費税を制度論として捉える視点を加えており、「早く決めて告知してほしい」という要求が家計と業務の両方から出ている。

【3. Part 3：高市総理への好感度・評価】

根拠：「食料品の消費税 1%、早く決めて早めに告知してください。準備する側も時間が必要なので」がメッセージだと答えた。

推論：「準備する側も時間が必要」という表現に、制度変更を受ける側の実務者視点がある。高市への評価は方向性への賛成と、告知のタイミングという実務的な要求が中心だ。政策の内容よりも実施プロセスへの関心が強い。

FD：長坂の高市評価は「1%案の方向性は理解した、早く決めて早めに告知してほしい」という実務者としての要求だ。総務として制度変更を現場で対応してきた経験が、政策の中身よりも告知・準備期間への関心を生んでいる。

【全体総括】

根拠：「システムの理由がわかったなら、早く決めて早めに告知してほしい」と締めた。「家計のためにも、仕事の準備のためにも、早く決まってほしい」と述べた。

推論：長坂を貫く行動原理は「制度変更を受ける側として、早い決定と早い告知を求める」だ。総務として制度変更のたびに現場対応をしてきた経験が、「レジシステム 1 年」という理由への即座の共感と「準備時間が必要」という実務者の要求につながっている。

FD：長坂幸子の特徴づけるのは「社内の制度変更対応を長年担ってきた総務職として、レジシステムの理由に即納得し、家計と仕事の両面から早期の決定・告知を求める 43 歳」だ。「準備する側も時間が必要なので」という言葉に、制度変更を受ける側の実務者の視点が凝縮されている。

発言録

導入 + Part 1：食料品消費税の議論への賛否と理由

M：今日はお時間をいただきありがとうございます。正解のない対話ですので、思ったことをそのままお話しいただければ大丈夫です。最近の生活はいかがですか？

長坂幸子：会社の総務で働いています。総務の仕事は制度が変わるたびに社内システムや書類を更新する役割があるので、最近は消費税に限らず制度変更のたびに忙しくなっています。共働きで子どもが二人、家では食費の節約を意識しています。

M：食料品消費税の議論をご存知でしたか？

長坂幸子：知っています。高市総理が食料品の消費税をゼロにするという公約を掲げていたのも、最近 1%案が出ているのも把握しています。

M：知っていることを教えてください。

長坂幸子：ゼロという大きな公約が出て、それが 1%案に落ち着いてきているということですね。総務の仕事をしていると税制の変更には敏感になるので、この話は注目していました。

M：まずご家庭の食費という観点からはどうですか？

長坂幸子：子どもが二人いて、食費は月 5～6 万円くらいです。消費税が少しでも下がれば助かりますね。

M：その話を聞いた時、どんな気持ちでしたか？

長坂幸子：食費が下がるなら家計は助かりますが、「それで社内の経費精算システムとかどうなるんだろう」という仕事目線も同時に浮かびました。

M：食料品消費税を 1%にするという案が出ていますが、どう思いますか？

長坂幸子：家計としては助かります。ゼロの方が良かったですが、1%でも下がるなら評価します。

M：なぜそう思いますか？

長坂幸子：家計が楽になりますし、共働きとはいえ子どもの教育費もかかるので、食費が少しでも下がれば助かります。

M：ゼロにするという公約があったのですが、覚えていますか？

長坂幸子：覚えています。

M：驚きましたか、1%になったと聞いて？

長坂幸子：「そうなるだろうな」という感じです。大きな公約が変わることはよくあることで。

M：1%になったとしたら評価しますか？

長坂幸子：評価します。

M：0 にできない理由について知りたいですか？

長坂幸子：ぜひ知りたいです。仕事柄、理由があれば納得しやすいので。

M：なぜ 1%という議論が出ているか、ご存知ですか？

長坂幸子：知らないです。

M：実は、スーパーなどのレジシステムを税率ゼロに対応させるための改修に約 1 年かかるためです。0%だと 1 年、1%なら半年で実現できるそうです。それを聞いてどう思いますか？

長坂幸子：なるほど、システムの問題なんですね。総務の仕事で社内のシステム変更を担当していると、その大変さはよくわかります。法改正や制度変更があるたびに、社内システムの改修・

マニュアル更新・社員への説明と大変な作業が発生します。全国のレジを一斉に変えるとなれば、確かに1年はかかりますね。それなら1%で半年早く始まる方が現実的だと思います。

M：半年早いなら、1%になる方がいいということですか？

長坂幸子：そうです。理由がわかれば、1%案の方が現実的な判断だと思います。

M：まだ決まったわけではありません。今も検討中のようです。それを聞いてどう思いますか？

長坂幸子：早く決めてほしいですね。制度変更は決定から実施まで準備期間が必要なので、早く告知してくれると対応しやすいです。

Part 2：消費税についての認知・考え（自由発話）

M：消費税についてはどのような知識や情報をお持ちですか。また、どのように考えていますか？

長坂幸子：食料品が8%で他が10%というのは知っています。消費税が社会保障の財源になっているのも。総務の仕事で経費精算や請求書を扱っているので、消費税の扱いは日常的に意識しています。

M：まずご家族の食費という立場からはいかがですか？

長坂幸子：子どもが二人いて食費は月5〜6万円です。共働きで家計は安定していますが、食費が1%でも下がれば年間で数千円の節約になりますし、助かります。

M：その情報はどこから？

長坂幸子：毎月の食費を把握しているので、自分で計算しています。ニュースや職場の情報も参考にしています。

M：何か実感として感じているものはありますか？

長坂幸子：物価上昇は感じています。スーパーで同じものを買っても高くなっているのは体感しています。

M：それについてはどう思いますか？

長坂幸子：物価と消費税が重なって生活コストが上がっているのを感じます。消費税が1%でも下がれば少し楽になりますし、制度が決まってくると仕事の準備もしやすくなります。

Part 3：高市総理への好感度・評価

M：高市総理が就任してから、印象は変わりましたか？

長坂幸子：就任前は経済政策に積極的という印象でした。消費税ゼロの公約は「大きいことを言うな」と思いましたが、1%案になったのは現実的な修正という感じです。

M：総務のお仕事をされているお立場から見ると、高市総理についてどんなことが気になりますか？

長坂幸子：制度変更の告知時期が一番気になります。税制が変わると社内で対応が必要になるので、早めに告知してほしい。消費税の話で言えば、1%案に決まったとしても、実施時期を早く確定してくれないと準備できません。

M：消費税の問題での高市総理の姿勢、どう見えますか？

長坂幸子：方向性は良いと思います。今日のシステムの話聞いて、1%案の理由は納得しました。システムの理由なら仕方ないと理解できます。

M：今の高市総理に何か一言メッセージを送るとしたらなんと言いますか？

長坂幸子：「食料品の消費税 1%、早く決めて早めに告知してください。準備する側も時間が必要なので」ですかね。

M：なぜそう言いたいのですか？

長坂幸子：家計としても早く始まってほしいですし、制度変更の準備には時間がかかるので、早く決定・告知してほしいです。総務として制度変更の対応をしてきた経験から、余裕を持った告知が現場の混乱を防ぐとわかっています。

締め

M：ご主人とこういう話をすることはありますか？

長坂幸子：します。夫は「食費が下がれば助かるね」と言っていました。私が仕事の話をするとき「また制度変更？大変だね」と言っていました。

M：今日の話を通じて、一言でまとめると何でしょう？

長坂幸子：「システムの理由がわかったなら、早く決めて早めに告知してほしい」ですかね。

M：なぜそう思いますか？

長坂幸子：レジシステムの理由を聞いて、ゼロより 1%で早く始まる方が現実的だとわかりました。家計のためにも、仕事の準備のためにも、早く決めてほしいです。

M：言い忘れたことや、改めて思ったことがあれば。

長坂幸子：消費税の話は今日少し整理できました。システムの理由で 1%案になったのはわかりましたし、家計としても仕事としても早く実現してほしいと思っています。

M：ありがとうございました。